

ムベ アケビ科

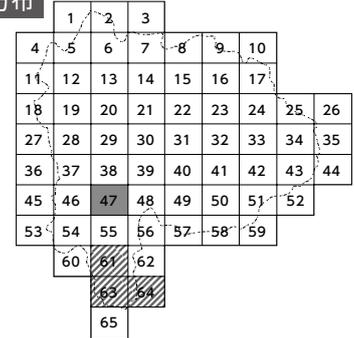
Stauntonia hexaphylla (Thunb.) Decne.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 常緑のつる性木本で、葉は5~7小葉からなり、手のひら状の複葉で、小葉は鋸歯がなく、厚く無毛である。花は白色で、ややピンク色がかかる。花弁はなく、がく片6で、外側3は内側3より幅が広い。雄花の雄しべ6は合生、雌花の雌しべ3で小さな退化雄しべ6が雌しべを取り巻いている。花期は4~5月。

生育環境 関東以西の暖地に分布する。県内では身延町以南に生育。個体数は少ない。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。分布限界種。県内での生育地が限られ、森林伐採などにより個体数の減少が懸念される。

特記事項 各生育地の個体数は少ない。 具体的要件⑥

ヘビノボラズ メギ科

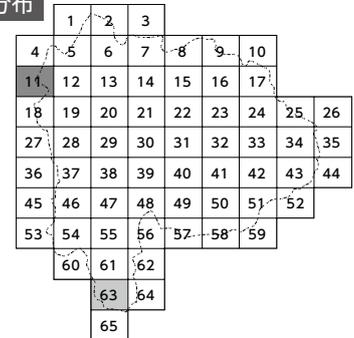
Berberis sieboldii Miq.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 落葉低木。株立ちに分枝する。高さは70~80cmぐらい。枝には稜があり、葉のつけ根に刺がある。花は黄色で5月頃。

生育環境 山地帯樹林床に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数1。希少種。

特記事項 具体的要件②

サンカヨウ メギ科

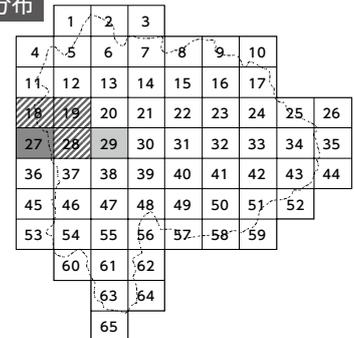
Diphylleia grayi F.Schmidt

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

分布



形態 多年草。高さ30~60cmぐらい。茎葉に毛がある。根生葉は大きく楕状で長い柄がある。花は茎の先に白色の花を数個付ける。実は熟すと黒くなる。

生育環境 やや湿った亜高山帯の林縁に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。分布量少ない。

特記事項 シカの食害を受け、分布地の個体数は減少している。個体数の減少から今回IB類とした。 具体的要件②⑥

キタダケトリカブト キンポウゲ科

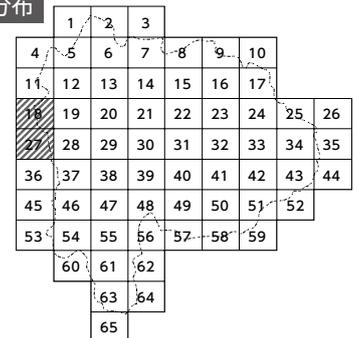
Aconitum kitadakense Nakai

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 多年草。高さ20~30cm。根生葉は花時に残る。茎葉の葉身5深裂し、終裂片は細く幅1~3mm。花柄と萼の外面に曲がった毛がある。雄しべの花糸に直毛がある。花期は8月。

生育環境 高山帯の砂礫地の草地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。限られた場所に生育するが、個体数は比較的多い。傾斜地の崩壊などによる個体数の減少が懸念される。

特記事項 山梨県希少野生動物種の保護に関する条例による採取規制。キタザワブシの高山型と考える説もある。葉の大きさや裂片の切れ込みが細かいこと、背丈の小さいことなどに違いがあるが、高山に生える物は同定が難しい。 具体的要件①

ミチノクフクジュソウ キンポウゲ科

Adonis multiflora Nishikawa et Koji Ito

形態 多年草。草丈15～30cm。根茎は太く、多数の根を出す。葉は互生。3～4回羽状多裂。茎は中空。花は1茎3～8個。花弁11～22。先端赤褐色。鱗片は花弁より短い。数は6～12。

生育環境 山地の林縁、土手の草地帯に分布。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数5。自然環境変化と園芸採取が懸念される。甲府盆地の北側に分布域がある。

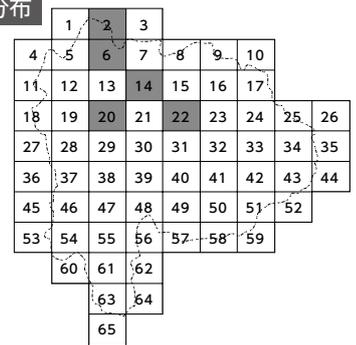
特記事項 2005年版ではフクジュソウ1種としたが、その後、日本産フクジュソウは4種に分けられた。これにより今回より本県分布は2種となった。2014年環境省カテゴリ準絶滅危惧。本県の状況から、本種は今回の調査からIB類とした。 具体的要件⑥

2018：山梨県カテゴリ
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリ
準絶滅危惧(NT)

2005：山梨県カテゴリ
なし

分布



フクジュソウ キンポウゲ科

Adonis ramosa Franch.

形態 多年草。高さ15～30cm。根茎は太く、多数の根を張る。茎の断面は中実。葉は互生、3～4回羽状分裂。花数、1茎に1～多花。花弁11～22。萼片は6～12。花弁と同長かやや短い。

生育環境 落葉樹林下や斜面沿いの草地、土手等に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。甲府盆地の南側に分布域が限られている。

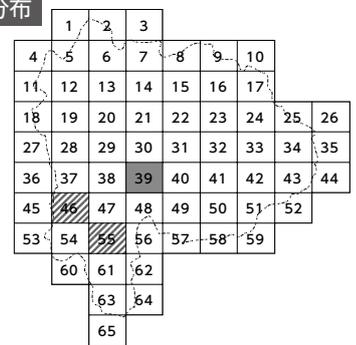
特記事項 茎が中実である点からミチノクフクジュソウとは区別する。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリ
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリ
なし

2005：山梨県カテゴリ
絶滅危惧II類(VU)

分布



キクザキイチゲ キンポウゲ科

Anemone pseudoaltaica H.Hara var. pseudoaltaica

形態 多年草。肥厚した地下茎は横に這い、花茎は先端から1本出る。葉は3枚、2回3出羽状に裂ける。萼片は5個で花弁状。花期は4～5月。

生育環境 山地の樹林下に群生するが、生育地は少ない。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数6。採取圧や生育地の森林開発や自然遷移による生育地の環境の変化による絶滅が危惧される。

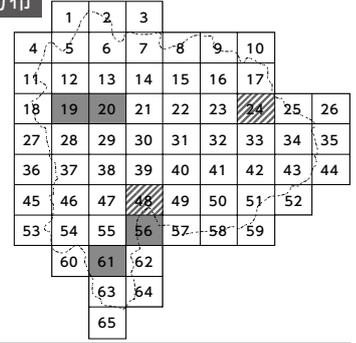
特記事項 具体的要件②③

2018：山梨県カテゴリ
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリ
なし

2005：山梨県カテゴリ
絶滅危惧IB類(EN)

分布



アズマイチゲ キンポウゲ科

Anemone raddeana Regel

形態 多年草。地下茎は紡錘状で根出葉は長い柄がある。花は花茎に1個つき、萼片は8～13個で白色く、外側はやや紫色を帯びる。花期は4～5月。

生育環境 山地の樹林下や湿り気のある田畑の土手などに群生する。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数9。採取圧や生育地の開発、自然遷移による生育環境の変化による絶滅の恐れがある。

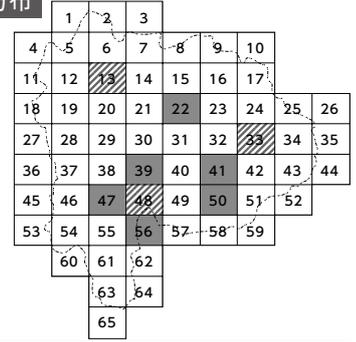
特記事項 2005年出現メッシュ数3。今回の調査ではメッシュ数が増えたが継続してIB類として取り扱う。 具体的要件②③

2018：山梨県カテゴリ
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリ
なし

2005：山梨県カテゴリ
絶滅危惧IB類(EN)

分布



植物
IB類

キタダケソウ キンポウゲ科

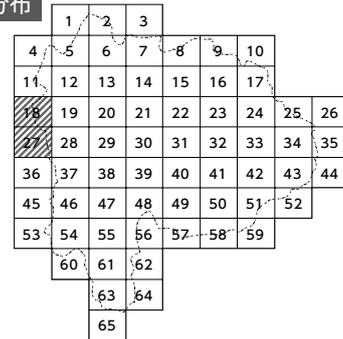
Callianthemum hondoense Nakai et H.Hara

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 多年草。高さ10~20cm。根生葉の長さ10~20cm、長い柄があり、2~3回3出複葉。花は白色。萼片5枚。花弁6~8枚で、先はへこむ。花期は6月中旬~7月上旬。

生育環境 北岳の草地。土壌は砂礫地。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。個体数は比較的多い。採取・傾斜地の崩壊による減少も懸念される。

特記事項 山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例による採取規制。具体的要件①

カザグルマ キンポウゲ科

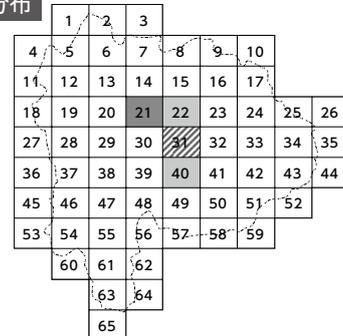
Clematis patens C.Morren et Decne.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 蔓性の多年草。蔓はやや木質化し越年する。葉は対生し3出または2回3出葉。小葉は卵形で先端が尖る。葉柄は長く他のものからみつく性質がある。花は新しい枝の先端につき、萼が花弁状になり、通常8枚。花期は5~6月。

生育環境 藪の縁、または垣根などに生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。園芸採取、自然の遷移、環境の改変によっては絶滅が懸念される。

特記事項 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。具体的要件①②

トウゴクサバノオ キンポウゲ科

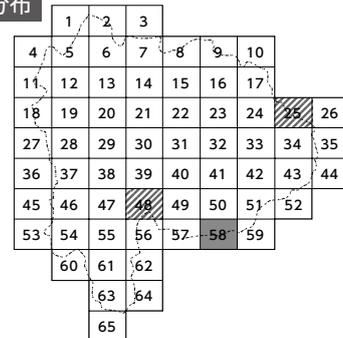
Dichocarpum trachyspermum (Maxim.) W.T.Wang et P.K.Hsiao

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 多年草。茎の高さ10~20cm。基部に数枚の根出葉をつけ、長柄がある。茎葉は対生する。花は淡黄緑色~白色で、やや垂れ下がって咲く。花期は4~5月。

生育環境 山地の陰湿地に生える。本県では神社社叢や噴火口内に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。神社の社叢に生育している事から踏みつけによる減少の恐れがあるため保全対策が必要。

特記事項 具体的要件①②

セツブンソウ キンポウゲ科

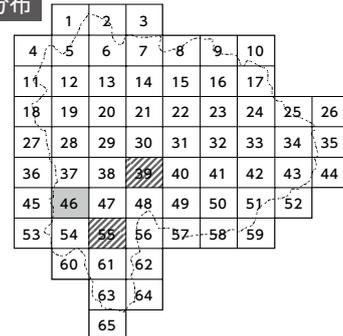
Eranthis pinnatifida Maxim.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 多年草。地下に球状の塊茎がある。根出葉と花茎を束生する。根出葉と茎葉があり、茎葉は2枚で花の近くにつく。花茎は高さ5~15cm。1個の花を頂生する。花は径2cm程度。萼片は白色で5枚。花弁は黄色で小さく先は2裂する。花期は2~3月。

生育環境 落葉広葉樹林下や林縁で、土壌は湿り気のある砂礫地に生育。道路工事などの開発、採取による絶滅が危惧される。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。生育場所により個体数が大きく異なる。踏みつけや採取による絶滅が危惧される。

特記事項 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。具体的要件①③

ミスミソウ キンポウゲ科

Hepatica nobilis Schreb. var. *japonica* Nakai

形態 常緑の多年草。根茎から柄のある数枚の葉を出し、葉身は3尖裂する。早春、数本の花茎を出し白色の花をつける。葉身の先の丸いものをスハマソウとして区別する。花色の変化があり、多くの園芸種がある。花期は4月。

生育環境 山地の樹林下に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。園芸採取、自然遷移による減少が懸念される。

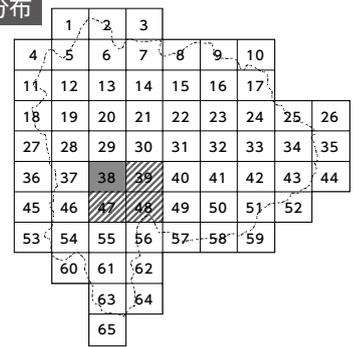
特記事項 具体的要件⑥

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



オキナグサ キンポウゲ科

Pulsatilla cernua (Thunb.) Berchtold et J.Presl

形態 多年草。根出葉は長柄があり、2回羽状複葉。茎葉は無柄。全草白毛が密生する。花時の茎の高さは10cmくらい。花は鐘型で下向きに咲く。顎片は6枚、そう果は多数付き白毛がある。花期は4～5月。

生育環境 日当たりのよい草地やガレ地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。採取や植生遷移による減少が懸念される。2005年出現メッシュ数6。過去の調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。

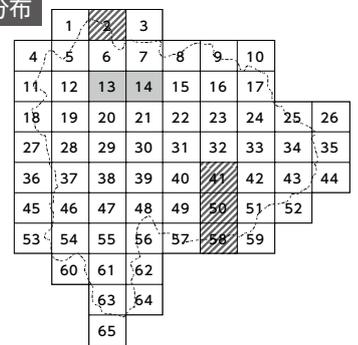
特記事項 保護の手を加えたことで、大きな群落になっているところもあるが、減少している場所もあり今回はIB類とした。 具体的要件④⑥

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

分布



コキツネノボタン キンポウゲ科

Ranunculus chinensis Bunge

形態 2年草。茎は直立し高さ25～60cm。茎や葉柄に開出荒い毛が目立つ。葉は1回3出複葉で、小葉はさらに2～3出状に中～深裂。花は径8～10mmで、萼片と花弁は同長。花床は花後に伸びて、8～10mmの長楕円形の集合花となる。花期は5～6月。

生育環境 日当たりの良い湿地。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数7。生育個体は点在し、個体数は少ない。湿地開発による絶滅が危惧される。

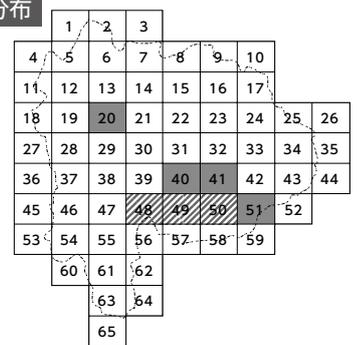
特記事項 具体的要件⑥

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



グンナイキンポウゲ キンポウゲ科

Ranunculus grandis Honda var. *mirissimus* (Hisauti) H.Hara

形態 多年草。地下に匍枝を出す。葉は基部が深く心形。花は黄色。集合果はほぼ球形で、そう果はレンズ状で無毛。ウマノアシガタ (2n = 14)、本種は4倍体 (2n = 28)。花期は4～5月。

生育環境 草原や疎林下に生える。分布地は限られている。個体数はやや多い。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数1。植生遷移による減少が懸念される。

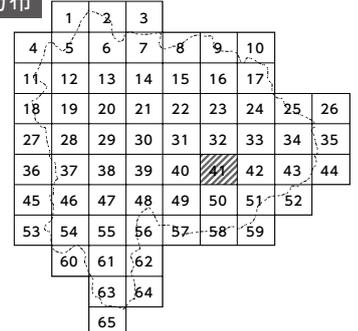
特記事項 具体的要件⑤

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



植物
IB類

ユズリハ ユズリハ科

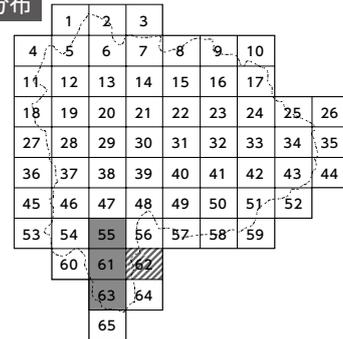
Daphniphyllum macropodum Miq. subsp. *macropodum*

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 常緑高木。樹高は4~10m。雌雄異株。葉は互生し有柄、葉身は長さ15~20cmの長楕円形から倒卵状長楕円形で全縁、厚い革質で表面は光沢があり、裏面は帯粉白色。花は総状につき、花弁はなく、萼片も欠くことがある。果実は長さ1cmくらいの楕円形、秋に暗青色に熟す。花期は4~5月。

生育環境 福島県以西の暖温地の山林。山梨県では、身延町以南に生育するが稀である。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 4。分布限界種。個体数は少ないが、IA ほどではない。継続してIB 類として取り扱う。

特記事項 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「稀」と記載されており、今回の調査では出現メッシュ数4となった。 具体的要件②⑥

ヤシャビシャク スゲリ科

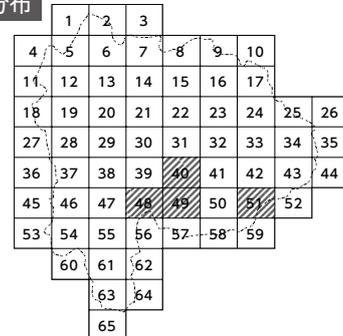
Ribes ambiguum Maxim. var. *ambiguum*

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 老木に着生する落葉性小低木。葉は互生し五角形を帯びた腎円形で、掌状3~5浅裂し、両面に短毛がある。液果は球形で緑色に熟し、腺毛がある。花期は4~5月。

生育環境 山地帯上部のブナの老木に着生。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 4。採取や生育地の森林伐採による環境変化による絶滅が危惧される。

特記事項 具体的要件②⑥

トガスグリ スゲリ科

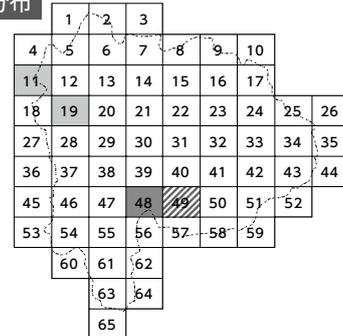
Ribes sachalinense (F.Schmidt) Nakai

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 落葉小低木。幹の下部は地面を這う。若枝は短い軟毛がやや密に生える。葉は長い柄があり、軟毛や腺毛がある。葉身は腎円形で掌状に3中裂、基部は深い心形。総状花序。液果は球形で腺毛を密生し赤く熟す。花期は5~6月。

生育環境 山地帯上部~亜高山帯の陰地のやや湿った場所に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 2。生育地はブナ帯の保護地域(富士箱根伊豆国立公園、南アルプス国立公園)であるが自然遷移に留意したい。

特記事項 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①②

ハナネコノメ ユキノシタ科

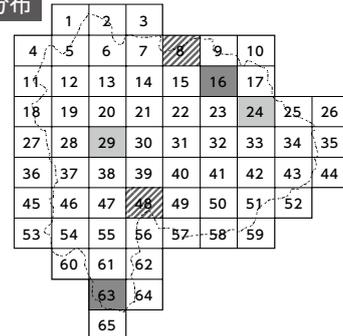
Chrysosplenium album Maxim. var. *stamineum* (Franch.) H.Hara

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 多年草。走出枝が良く発達し暗紫色を帯び、白軟毛を散生する。顎片は白色、雄蕊は8個で顎より長く、葯は暗紅紫色。花期は5月。

生育環境 山地や溪谷の陰湿地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 4。生育地の森林伐採による環境変化や地形の改変による減少が危惧される。

特記事項 具体的要件②

コガネネコノメソウ ユキノシタ科

Chrysosplenium pilosum Maxim. var. sphaerospermum (Maxim.) H.Hara

形態 多年草。走出枝は発達し軟毛が多い。葉は扇形～円形で、長さ3～15mm、縁に円い鋸歯がある。花茎の高さ4～10cm。花は黄色で、雄蕊は8個で顎より短く、葯は黄色。花期は4～5月。

生育環境 山地や溪谷の陰湿地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。生育地の森林伐採による環境変化や地形の改変による減少が危惧される。

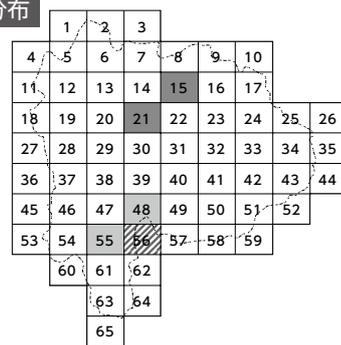
特記事項 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



コチャルメルソウ ユキノシタ科

Mitella pauciflora Rosend.

形態 多年草。花茎は20～30cm。根出葉は広卵形～卵円形で、基部は深い心形、縁は浅く5裂し、両面に開出毛と小さな腺毛がある。総状花序。花弁は紅紫色または淡黄緑色花で、羽状に裂ける。花期は4～6月。

生育環境 プナ帯の川沿いの樹林や谷間の湿生地に生える。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。個体数が少ない。生育地の森林伐採による環境変化や地形の改変による減少が懸念される。

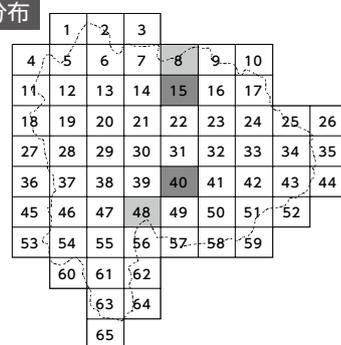
特記事項 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



ヤワタンソウ ユキノシタ科

Peltoboykinia tellimoides (Maxim.) H.Hara

形態 多年草。高さ40～60cm。根生葉は腺毛のある長柄に楕形につけ、7～13裂した大きな掌状葉となり、基部は深い心形となる。茎葉は数個互生し、表面に光沢がある。茎の先に集散花序をつけ、帯黄白色の花を数個つける。花期は5～7月。

生育環境 山地帯の林床や陰湿な谷間に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。群落をつくらず個体数は非常に少ない。シカの食害もあり崖の縁など食害を受けない場所に残る。森林伐採や谷間の崩壊などによる地形変化による減少が懸念される。

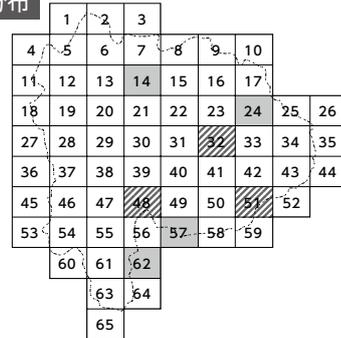
特記事項 シカの食害を受け、分布地の個体数は減少している。2005年調査では出現メッシュ数7。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件⑥

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



シコタンソウ ユキノシタ科

Saxifraga bronchialis L. subsp. funstonii (Small) Hultén var. rebunshirensis (Engl. et Irmsch.) H.Hara

形態 多年草。高さ3～15cm。根茎は細くよく分岐し、株状となる。地上茎は短く、赤みを帯び先端近くに葉を密生する。葉は肉質で、さじ状披針形～線状披針形で、縁に剛毛がある。花は白色。花弁の内側に黄斑と紅斑がある。花期は7月下旬～8月上旬。

生育環境 高山帯の岩礫地。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。個体数はわりと多い。踏みつけによる絶滅が危惧される。

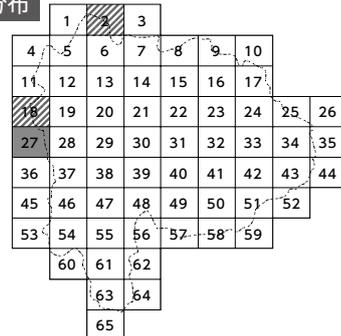
特記事項 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



I B 類 植物

タコノアシ タコノアシ科

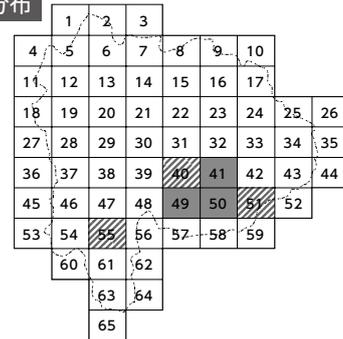
Penthorum chinense Pursh

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

分布



形態 多年草。走出枝を出す。地上部の茎の高さは 30 ~ 80cm。葉は狭披針形で縁に細鋸歯がある。花序の枝は始め渦巻き状になっているが、後にまっすぐ伸びて斜上する。その枝に目立たない径 5mm くらいの花を付ける。花期は 8 ~ 10 月。

生育環境 湖の泥湿地や湿り気のある休耕田。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 6。生育地では群落を作る。湿地開発による影響をまともに受け、絶滅が危惧されるため IB 類とした。

特記事項 具体的要件②

アリノウグサ アリノウグサ科

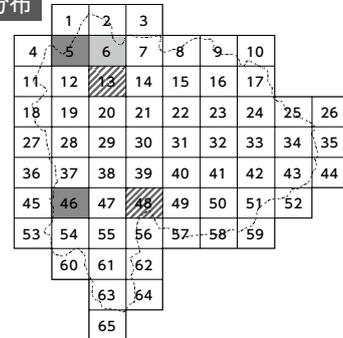
Haloragis micrantha (Thunb.) R.Br.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 多年草。高さ 10 ~ 30cm。茎は 4 稜形でしばしば赤褐色を帯び、下部は分枝して地を這う。葉は対生し、長さ 0.6 ~ 1.2cm、幅 0.4 ~ 1cm、楕円形で鈍い鋸歯がある。花は茎の上に点々つき、下向きに咲く。萼筒は長さ約 1mm の球形で萼片は 4 個。花弁は 4 個で反り返る。柱頭は紅色で羽毛状。花期は 7 ~ 9 月。

生育環境 低山帯の丘陵地や山地の草原に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 4。生育箇所、個体数は少ない。草地の植生変化による絶滅が危惧される。

特記事項 具体的要件②

ムラサキモメンヅル マメ科

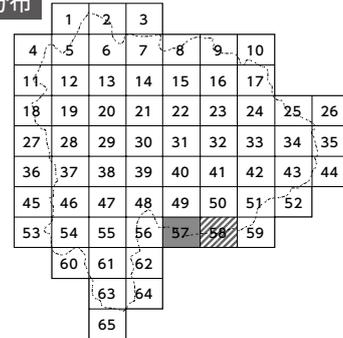
Astragalus adsurgens Pall. var. adsurgens

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 多年草。茎は倒伏し地を這い、長さ 10 ~ 40cm。葉は互生し有柄、葉身は長さ 5 ~ 15cm の小葉が 17 ~ 21 枚の奇数羽状複葉。各小葉は長さ 7 ~ 20mm の長楕円形から狭長楕円形。花は紅紫色、長い柄の上部に総状に密につける。花期は 7 ~ 8 月。

生育環境 北海道西南部、本州東北地方や中部などに隔離分布し、山地から高山の砂礫地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 2。産地極限、個体数は比較的多い。自然遷移による減少が懸念される。

特記事項 「山梨の植物・1981 年（昭 56）植松春雄」によると富士山には「多い」と記載されているが、出現メッシュ数 2 であり。分布域が極在している。 具体的要件①

シロウマオウギ マメ科

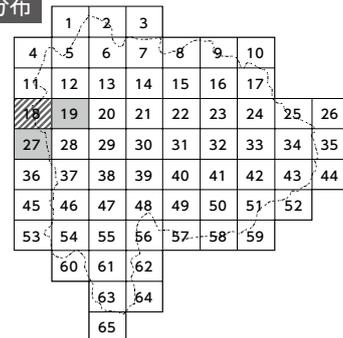
Astragalus shiroumensis Makino

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

分布



形態 多年草。高さ 10 ~ 40cm。小葉は長楕円形で 5 ~ 8 対、長さ 8 ~ 20mm、幅 4 ~ 6 mm。花は黄白色。萼に黒色の伏毛がある。豆果は紡錘形で黒色の伏毛がある。花期は 7 ~ 8 月。

生育環境 高山帯の草原。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 1。南アルプス、特に北岳では比較的個体数は多い。自然遷移による減少が懸念される。

特記事項 2005 年調査では出現メッシュ数 3 であるが、これまでの経過から生育の可能性がある。今回個体数、出現メッシュ数の関係で今回は IB 類とした。 具体的要件⑤

レンリソウ マメ科

Lathyrus quinquenervius (Miq.) Litv.

形態 堤防などの草地にはえる多年草。茎は3稜形で、幅1～2mmの2枚の翼がある。5～7月に紫色の蝶形花を開く。

生育環境 堤防などの日当りのよい草地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数1。河川の土手や堤防の草刈りによる消滅の危険性が增大している。

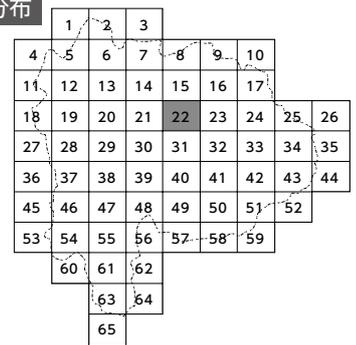
特記事項 前は情報不足種だったが、今回の調査では1メッシュで出現が確認されたため個体数も加味して判断しIB類とした。 具体的要件②⑤

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
情報不足(DD)

分布



ハゴロモグサ バラ科

Alchemilla japonica Nakai et H.Hara

形態 多年草。葉は根生。長い柄があり、円心形で、浅く7～9裂する。両面に伏毛がある。花茎は高さ15～35cmになり、先端に集まり、散形花序を作る。個々の花は小さく約3mmくらい。花弁はなく、萼と副萼が花弁に見える。花期は7～8月。

生育環境 高山帯の草地。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。比較的個体数はあるが、自然遷移による減少が懸念される。県内では、南アルプスのみ産するので大切にしたい。

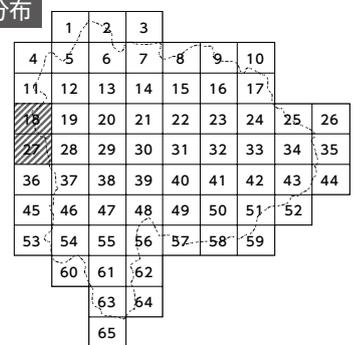
特記事項 具体的要件①④

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧II類(VU)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



キンロバイ バラ科

Potentilla fruticosa L. var. rigida (Wall. ex Lehm.) Th.Wolf

形態 落葉小低木。高さ30～100cm。葉は5個の長楕円形の小葉からなり、小葉には毛があり、キンロバイと形態はほぼ同じだが、花は黄色。

生育環境 日本での分布は、北海道・本州中部（南アルプスが分布限界）。本県では、南アルプスの高山帯の岩礫地に多く生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。北岳は個体数が多い。採取による減少が懸念される。

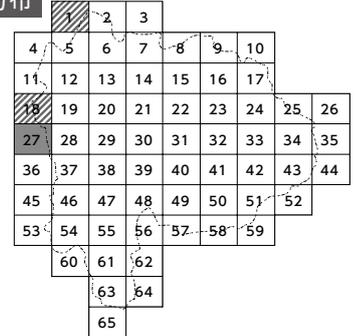
特記事項 具体的要件①④

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧II類(VU)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



ウラジロキンバイ バラ科

Potentilla nivea L. var. camtschatica Cham. et Schltdl.

形態 多年草。高さ10～20cm。小葉が3個、倒卵形で、鋸歯縁。小葉の裏面に白色の綿毛を密生する。径15～20mmの黄色の花を数個付ける。花弁の先は浅くへこむ。花期は7～8月。

生育環境 高山帯の岩塊地。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数1。比較的個体数が多い。踏みつけによる減少が懸念される。

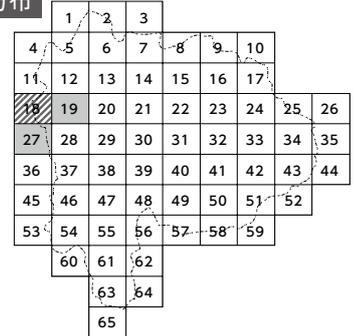
特記事項 2005年調査では出現メッシュ数3であり、これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育の可能性がある。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧II類(VU)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



植物
IB類

ミヤマモミジイチゴ バラ科

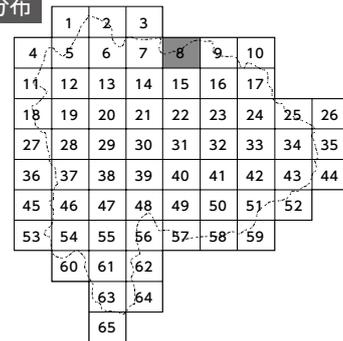
Rubus pseudoacer Makino

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー
なし

分布



形態 茎や枝は無毛、普通刺がないが時にはまばらに刺がある。葉は互生する。

生育環境 山地の薄暗い樹林内に稀に生える。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 1。とても稀。森林伐採等生育環境による減少が懸念される。まとまった個体が確認されたためIB類とした。

特記事項 2014年環境省カテゴリー準絶滅危惧。本県の場合から、本種は今回の調査からIB類とした。 具体的要件②

タテヤマキンバイ バラ科

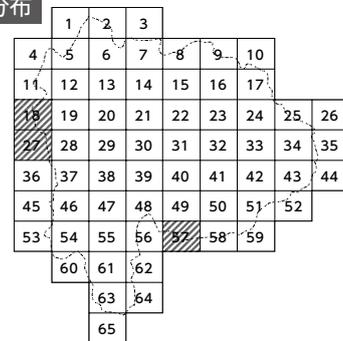
Sibbaldia procumbens L.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

分布



形態 落葉小低木。茎は匍匐し、葉は根茎の先に叢生する。小葉は3個で灰緑色、葉の先には鋸歯がある。両面に伏毛があり、白色を帯びる。花は黄色、径8mmほど。花期は7~8月。

生育環境 高山帯の砂礫地。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3であるが、個体数は少ない。生育地の斜面崩壊などによる減少が懸念される。

特記事項 「日本の分布は、北海道・本州（北アルプス・木曾駒ヶ岳・南アルプス）」と図鑑には記載されるが、富士山にも生育する。 具体的要件②

ハコネグミ グミ科

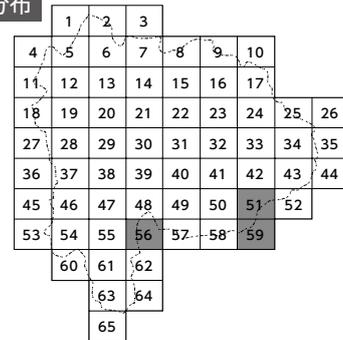
Elaeagnus matsunoana Makino

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー
情報不足 (DD)

分布



形態 落葉小低木。高さ1~3m。葉の表面は、淡黄緑色星状毛、裏面は銀色の鱗状毛と星状毛あり。花は5~6月。花柄は長い。

生育環境 富士、箱根一帯の林縁や低木林内。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。目立たない植物なので、森林整備などでの除去が危惧される。2005年調査では情報不足としたが、今回確認でき、メッシュ数、個体数から判断してIB類とした。

特記事項 富士箱根要素の植物である。 具体的要件⑥

ヨコグラノキ クロウメモドキ科

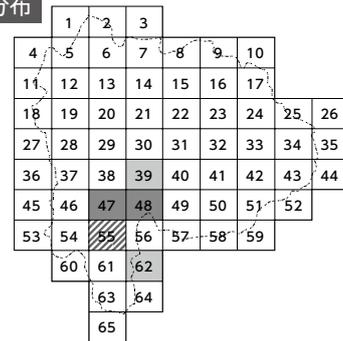
Berchemiella berchemiifolia (Makino) Nakai

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

分布



形態 落葉小高木。葉は互生し有柄、徒長枝はコクサギ葉序。葉身は長さ6~13cmの披針状長楕円形、鋭頭、全縁、裏面は帯粉白色。花は小さく緑黄色で枝の上部に集散状につく。果実は長さ7~8mmの楕円形、8月上旬に紅熟する。花期は5~6月。

生育環境 各地に分布するが、生育地は18カ所と少ない。県内では3カ所確認されている。沢沿いの岩場や傾斜地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。県内での生育地に限られ、森林伐採による個体数の減少が懸念される。

特記事項 「山梨の植物・1981年（昭56）植松春雄」によると「稀」と記載されており、今回の調査でも出現メッシュ数3であった。 具体的要件①②

シラヒゲソウ ニシキギ科

Parnassia foliosa Hook.f. et Thomson var. *foliosa*

形態 多年草。草丈は12～40cm。花茎の葉は互生し無柄、茎を抱くように数枚つける。葉身は長さ1.5～4cmの腎形。根生葉は長い柄をつける。花は径2～2.5cm、茎の先端に1個つけ、花弁は5枚で白色、縁は深く糸状に切れ込む。花期は8～9月。

生育環境 本州以西に分布し、山地のやや湿り気の多いところに生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。園芸採取による個体数の減少が懸念される。2005年出現メッシュ数5。これまでの経過からIB類として継続調査を行う。

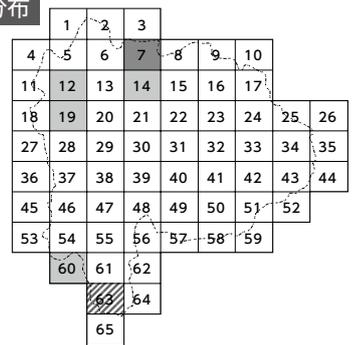
特記事項 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「少」と記載されており、今回の調査でも出現メッシュ数2と少なかった。2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



レンゲイワヤナギ ヤナギ科

Salix nakamurae Koidz. subsp. *nakamurae*

形態 落葉低木。高さ50cmぐらい。一般に匍匐性。表面は緑色で無毛。葉脈は凹み裏面にその分隆起する長毛が脈に残る。葉の変化が多い。

生育環境 高山の岩場に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。個体数は増加が見られる。

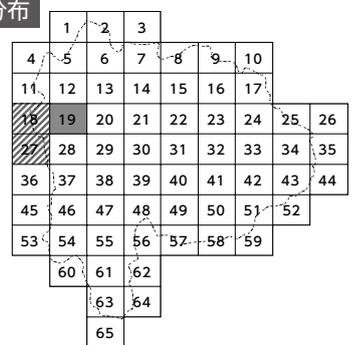
特記事項 今回の調査で出現メッシュ数、個体数の関係でIB類とした。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IA類(CR)

分布



ミヤマスミレ スミレ科

Viola selkirkii Pursh ex Goldie

形態 茎の高さは3～10cm。地上茎はなく、根茎から伸びる花柄に、直径1.5～2cmの紫紅色の花をつける。側弁基部には毛はない。葉は心形で、先がとがり、ふちに波状の鋸歯がある。

生育環境 ブナ帯の林床に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数6。森林伐採など生育環境の変化による減少が危惧される。

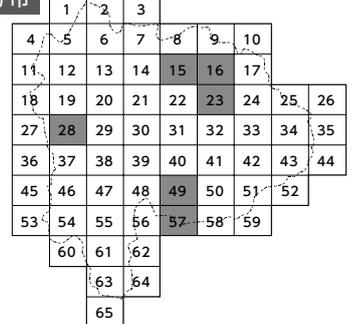
特記事項 前は情報不足種だったが、今回の調査では6メッシュで出現が確認されたため個体数も加味して判断しIB類とした。 具体的要件⑥

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
情報不足(DD)

分布



ミソハギ ミソハギ科

Lythrum anceps (Koehne) Makino

形態 多年草。茎は4稜または6稜あって直立し無毛、草丈は1mぐらいになる。葉は対生または輪生し無柄、葉身は長さ3.5～4.5cmの長ひ針形で鋭頭、基部は細くなり茎を抱かない。花は茎の上部に集散状につき、花弁は紅紫色で6枚あり長楕円形。花期は7～8月。類似のエゾミソハギ(*Lythrum salicaria* L.)は茎が無毛で葉は茎を抱く。

生育環境 全国各地に分布し、湿原などに生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。湿地開発、園芸採取、自然遷移による減少が懸念される。

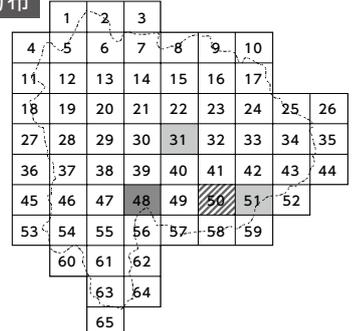
特記事項 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①③

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



植物
IB類

コオニビシ ミソハギ科

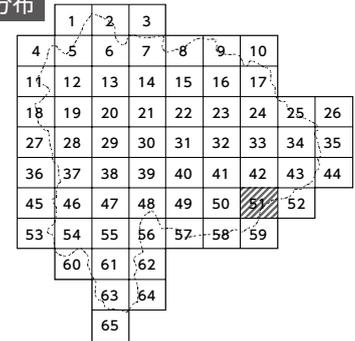
Trapa natans L. var. pumila Nakano ex Verdc.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
なし

分布



形態 1年草。浮水葉は卵状菱形で光沢がある。縁はあらい鋸歯があり、葉柄の一部が肥厚し袋状になる。花は白色。石果は倒三角形で4個の刺があり、4個の疣がある。

生育環境 湖沼や止水域に生育。本県では山中湖の一部に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数1。今回はまとまった個体が確認されているのでIB類とした。湖沼の水質や湖の開発による絶滅が危惧される。

特記事項 2005年調査ではヒメビシとして報告していたが今回からコオニビシと確認した。具体的要件⑤

ゴンズイ ミツバウツギ科

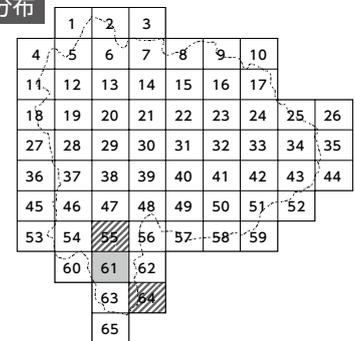
Euscaphis japonica (Thunb.) Kanitz

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧I B類 (EN)

分布



形態 落葉小高木。樹高は3~10m。葉は互生し有柄、葉身は長さ10~30cmの奇数羽状複葉、小葉は5~11枚、長さ5~9cmの卵形、無毛、光沢があり、細き鋸歯がある。花は黄白色で円錐状につける。袋果は肉質で、秋に紅熟する。種子は黒色で球形。花期は5~6月。

生育環境 茨城県、富山県以西に分布し、二次林などの林縁に生育する。県内では身延町以南に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。県内での生育地が限られ、森林伐採などによる個体数の減少が懸念される。2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から過去に報告のあった場所にも生育が考えられる。

特記事項 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「少ない」と記載されており、今回の調査でも出現メッシュ数2と少なかった。具体的要件①

モクゲンジ ムクロジ科

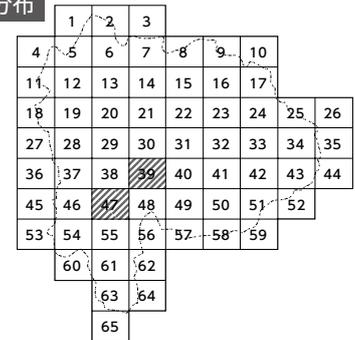
Koelreuteria paniculata Laxm.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧I B類 (EN)

分布



形態 落葉高木。高さ10mほどになる。葉は互生。長さ25~35cmの奇数羽状複葉卵形で縁には不揃いの粗い鋸歯あり。裏面の脈上には軟毛が生える。7~8月、枝先に長さ15~40cmの大型の円錐花序を直立し、黄白色の花を多数つける。花は直径1cmほどで花卉の基部に赤いハート形の付属体がある。

生育環境 日本全土に点在して分布する。本県では、低山帯の斜面沿いの砂礫に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。生育箇所・個体数とも少ない。河川崖地の整備による絶滅が危惧される。

特記事項 生育地の1カ所は、県自然記念物指定されている。具体的要件①

シロウマナズナ アブラナ科

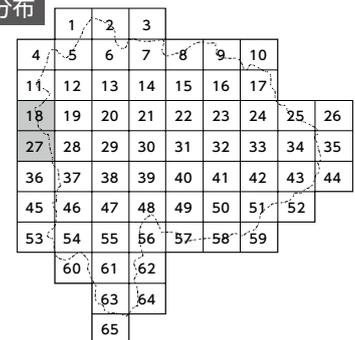
Draba shiroumana Makino

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧I B類 (EN)

分布



形態 多年草。高さ5~15cm。茎葉は1~4個、線状へら形~長倒披針形。葉の縁にだけ毛があり、2~3対の鋸歯がある。また、花序、果実は無毛。花は白色。花期は6~7月。

生育環境 高山帯の岩上。

生育状況と絶滅危惧の状況 2005年出現メッシュ数2。踏みつけによる絶滅が危惧される。今回の調査では報告がないが、2005年調査では出現メッシュ数2であり、これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育の可能性がある。

特記事項 具体的要件①②

マツグミ オオバヤドリギ科

Taxillus kaempferi (DC.) Danser var. *kaempferi*

形態 半寄生の常緑小低木。高さ30～50cm。葉は対生し倒披針形で先は丸い。基部に向かって狭くなる。花は8月で、赤い筒形が集まって着く。

生育環境 山地帯のマツ類、モミ、ツガなどに寄生。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数5。点々とあるが松枯れによる減少が危惧される。

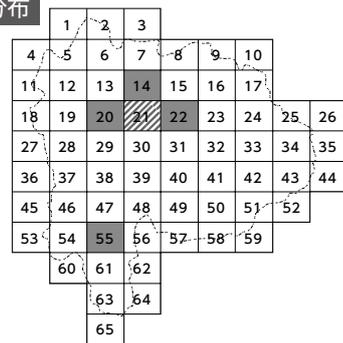
特記事項 具体的要件⑥

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



植物
IB類

モウセンゴケ モウセンゴケ科

Drosera rotundifolia L.

形態 多年草。葉は倒卵状円形、裏面に長い消化腺毛がある。基部は細くなって柄になる。花茎6～20cm。花は白色。花期は6～8月。

生育環境 日当たりのよい酸性の湿地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数1。分布域が限られている。踏みつけや湿地開発、自然遷移等により個体数の減少が懸念される。

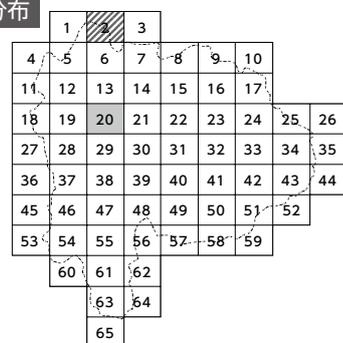
特記事項 2005年出現メッシュ数2。今回は1メッシュだがその中に数カ所生育地があるため継続してIB類とした。具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



タカネビランジ ナデシコ科

Silene akaisialpina (T.Yamaz.) H. Ohashi, Tateishi et H. Nakai

形態 ビランジに似るが全体腺毛、白毛多い。花は大きく、白花品もある。

生育環境 高山帯岩場に生育分布。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数6。特定地限定分布。

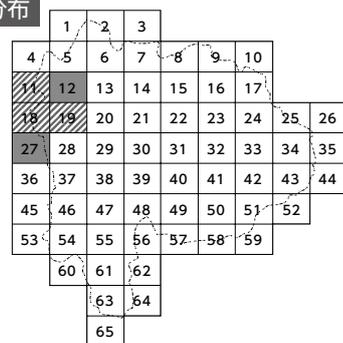
特記事項 山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例による採取規制。環境省2000年RDBの報告書では、本種はオオビランジに含まれているが、本県では分離して扱った。具体的要件③

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



イワウチワ イワウメ科

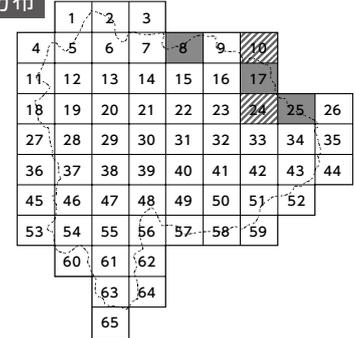
Shortia uniflora (Maxim.) Maxim.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧I B類 (EN)

分布



形態 葉は長さ幅共に2.5~7cmの広円形で先がややへこみ、基部は心形。葉の縁は波状の鋸歯があり、厚く表面は光沢がある。葉の間から5~15cmの花茎を立て、頂に淡紅色の径3cmほどの花を1個つける。花期は4~5月。

生育環境 山地の北側尾根など日陰の岩場に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数5。2005年調査以上の生育個所が確認されたが、森林伐採や植生遷移による絶滅が危惧される。

特記事項 山梨県ではトクワカソウではなくイワウチワとして扱う。 具体的要件②

アシタカツツジ ツツジ科

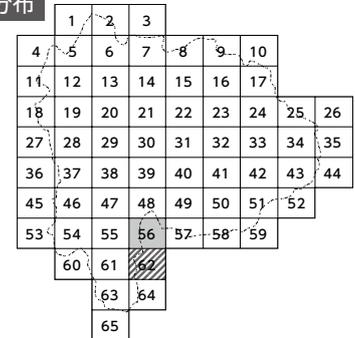
Rhododendron komiyamae Makino

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧I B類 (EN)

分布



形態 落葉低木。高さ1~3m。葉は長楕円形。花は紅紫色で枝先に2~4個つく。雄蕊は5~10本。

生育環境 山地の尾根の明るい樹林下や岩場に生育する。本県では、県南部の静岡県境に分布。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数1。自然の遷移や環境の改変によっては減少が懸念される。

特記事項 2005年調査では出現メッシュ数2。木本でもありこれまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

ツルアリドオシ アカネ科

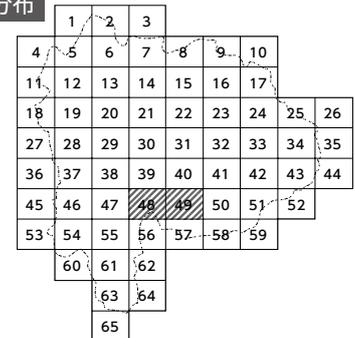
Mitchella undulata Siebold et Zucc.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧I B類 (EN)

分布



形態 匍匐性常緑の多年草。茎は分枝して地上を這う。葉は深緑色で光沢がある。花期は7~8月。花は白色で筒状、長さ1cm、先は4裂し内面は有毛。子房は2個が合着し、石果は赤く熟す。

生育環境 山地帯のやや湿った場所に生育。県内の生育は分布がかたよっている。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。生育地は国立公園特別保護地域であるが、踏みつけによる減少が危惧される。

特記事項 具体的要件①

シロバナイナモリソウ アカネ科

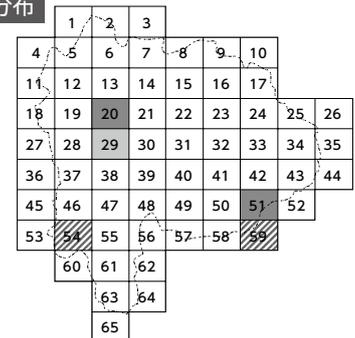
Pseudopyxis heterophylla (Miq.) Maxim.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

分布



形態 多年草。茎は2列に細毛を生じる。葉は互生し有柄、葉身は長さ2~6cmの卵形で短毛を散生し、先端は短く尖る。花は上部の葉腋に数個つけ、花冠は長さ1cmで白色。花期は6~7月。類似のイナモリソウは茎全体に曲がった短毛を生じ、花冠は紅紫色。

生育環境 関東南西部から近畿の太平洋側に分布し、林床などに生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。県内での生育地が限られている。シカの食害等が懸念されるためII類からIB類に変更した。

特記事項 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「極稀」と記載されているが、今回の調査では出現メッシュ数4であった。 具体的要件②

ハルリンドウ リンドウ科

Gentiana thunbergii (G. Don) Griseb. var. *thunbergii*

形態 2年草。茎は束生してしやや斜上し、上部で分枝する。草丈は5～15cm。根生葉は長さ1～3cmの卵形。茎葉は長さ5～10mmの卵状披針形。花は茎頂につき、花冠は青紫色、長さ2～3cmで5裂し、裂片は三角状披針形。花期は5～6月。

生育環境 全国各地に分布し、やや湿り気のある山野に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 2005年出現メッシュ数2。IB類としてあるが、周囲の植生変化等で絶滅が危惧される。今回の調査では報告がなかったが、これまでの経過から継続してIB類として調査をしていく。

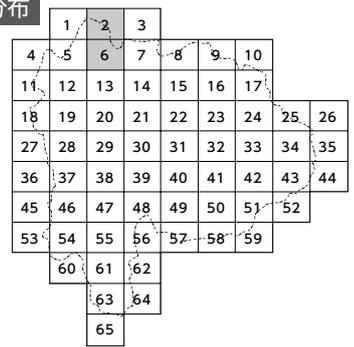
特記事項 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「少ない」と記載された。2005年調査で出現メッシュ数2であり、県内では自生地の環境が少ない。 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



エゾリンドウ リンドウ科

Gentiana triflora Pall. var. *japonica* (Kusn.) H. Hara

形態 多年草。茎は太くて直立し、高さ30～80cm。葉は披針形で対生し、裏面は粉白を帯びる。花冠は青紫色、裂片は平開する。萼裂片は長さ・形がいちじるしく不同。花期は9～10月。

生育環境 山地の湿地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 2005年出現メッシュ数2。分布域が限られ個体数も少ない。採集や動物の食害が目立ち、絶滅が懸念される。今回の調査では報告がなかったが、これまでの経過から継続してIB類として調査を行う必要がある。

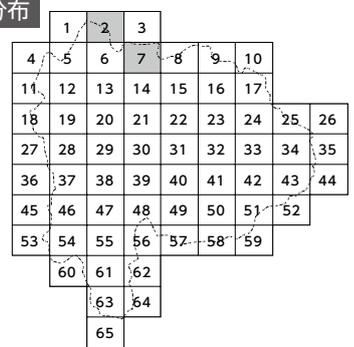
特記事項 以前確認した木賊ではシカの食害で確認できず。過去の調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



ムラサキセンブリ リンドウ科

Swertia pseudochinensis H. Hara

形態 2年草。センブリに類似するが、草丈は50～70cm、茎は暗紫色を帯び太い。葉は対生し、長さ2～4cmで線状披針形。花は茎頂に円錐状につき、花冠は淡紫色で濃紫色の脈を生じる。全草苦味を生じるが、薬用には用いない。花期は8～10月。

生育環境 関東地方以西に分布し、日当たりのよい山野に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。草地開発、自然遷移による減少が懸念される。

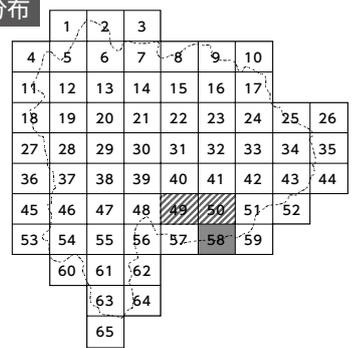
特記事項 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「稀」と記載されており、今回の調査でも出現メッシュ数3と少なかった。 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
準絶滅危惧(NT)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



コカモメヅル キョウチクトウ科

Tylophora floribunda Miq.

形態 多年草。茎は根元から蔓となり、他物に絡んで斜上する。葉は対生し、柄があり、三角状の卵形～卵状披針形で、長さ3～7cm、幅1～3cm、基部は浅い心形となる。花期は7～8月。花序は良く分枝し葉よりも長く、花は暗紫色、副花冠は小さく蕊柱に隠れて目立たない。

生育環境 山地帯の林縁に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数1。個体数は少ない。樹木伐採や登山道などの草刈りによる絶滅が危惧される。

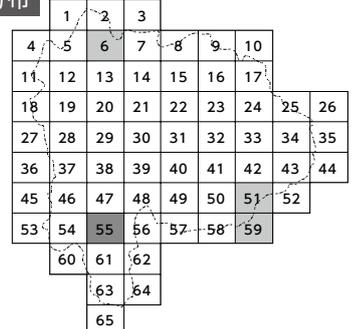
特記事項 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



フナバラソウ キョウチクトウ科

Vincetoxicum atratum (Bunge) C. Morren et Decne.

2018 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017 : 環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布

	1	2	3						
4	5	6	7	8	9	10			
11	12	13	14	15	16	17			
18	19	20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31	32	33	34	35	
36	37	38	39	40	41	42	43	44	
45	46	47	48	49	50	51	52		
53	54	55	56	57	58	59			
	60	61	62						
		63	64						
			65						

形態 多年草。草丈は 40 ~ 80cm で直立し、株全体に軟毛を密生する。葉は対生し有柄、葉身は長さ 6 ~ 14cm で卵形から楕円形。花は葉の基部に密につけ、花冠は径 10 ~ 15mm で濃褐紫色。果実は広被針形、種子は白色の毛を生じる。花期は 6 ~ 7 月。

生育環境 全国各地に分布し、草地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 4。草地開発、自然遷移による減少が懸念される。

特記事項 「山梨の植物・1981 年（昭 56）植松春雄」によると「少」と記載されているが、今回の調査では出現メッシュ数は 4 であった。 具体的要件②⑥

ツルガシワ キョウチクトウ科

Vincetoxicum macrophyllum Siebold et Zucc. var. *nikoense* Maxim.

2018 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017 : 環境省カテゴリー
なし

2005 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布

	1	2	3						
4	5	6	7	8	9	10			
11	12	13	14	15	16	17			
18	19	20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31	32	33	34	35	
36	37	38	39	40	41	42	43	44	
45	46	47	48	49	50	51	52		
53	54	55	56	57	58	59			
	60	61	62						
		63	64						
			65						

形態 多年草。草丈は 50 ~ 100cm で先端部分は蔓状、無毛または僅かに毛を生じる。葉は対生し有柄、葉身は長さ 12 ~ 25cm で卵形から広楕円形で鋭頭、基部は円形またはくさび形。花は葉腋につき、花冠は径 6 ~ 8mm で暗紫色。果実は線状針形で双生する。花期は 7 ~ 8 月。

生育環境 本州、四国に分布し、山地の林床に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 2005 出現メッシュ数 4。個体数は少ない。森林伐採、自然遷移による減少が懸念される。今回の調査では確認できなかったがこれまでの経過から IB 類として報告する。

特記事項 「山梨の植物・1981 年（昭 56）植松春雄」によると「極稀」と記載されている。今後も継続調査が必要である。 具体的要件⑥

タチガシワ キョウチクトウ科

Vincetoxicum magnificum (Nakai) Kitag.

2018 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017 : 環境省カテゴリー
なし

2005 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布

	1	2	3						
4	5	6	7	8	9	10			
11	12	13	14	15	16	17			
18	19	20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31	32	33	34	35	
36	37	38	39	40	41	42	43	44	
45	46	47	48	49	50	51	52		
53	54	55	56	57	58	59			
	60	61	62						
		63	64						
			65						

形態 多年草。茎は直立し、草丈は 30 ~ 60cm、細毛を生じる。葉は有柄、茎の上部に対生してつき、葉身は長さ 10 ~ 17cm の広卵形から菱状広楕円形、先端は尖り、基部は円形からやや広くくさび形。花は茎頂部に密につけ、花冠は緑褐色。花期は 5 ~ 6 月。

生育環境 本州、四国に分布し、山地の林床に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 2005 年出現メッシュ数 3。シカの食害等で生育地が減少している。これまでの経過から IB とするが減少が心配される。

特記事項 「山梨の植物・1981 年（昭 56）植松春雄」によると「稀」と記載されている。今回の調査では出現メッシュ数 0 だが、これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

サワリソウ ムラサキ科

Ancistrocarya japonica Maxim.

2018 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017 : 環境省カテゴリー
なし

2005 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

	1	2	3						
4	5	6	7	8	9	10			
11	12	13	14	15	16	17			
18	19	20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31	32	33	34	35	
36	37	38	39	40	41	42	43	44	
45	46	47	48	49	50	51	52		
53	54	55	56	57	58	59			
	60	61	62						
		63	64						
			65						

形態 多年草。日本特産属の 1 属 1 種。草丈は 50 ~ 80cm。葉は互生し無柄、葉身は長さ 10 ~ 20cm の長楕円形で鋭頭、基部は細くなり茎に続く。花は青紫色、長さ 8 ~ 10mm の筒状鐘形で茎頂付近につく。果実は灰白色で光沢があり、先端は鉤状となる。花期は 5 ~ 6 月。

生育環境 関東以西から九州の太平洋側に分布し、山地の林床に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 1。食害、森林伐採、自然遷移による減少が心配される。2005 年調査では II 類としたが、今回からは IB 類として継続調査が必要である。

特記事項 「山梨の植物・1981 年（昭 56）植松春雄」には記載されておらず、また今回の調査でも出現メッシュ数 1 と少なかった。 具体的要件②

ムラサキ

ムラサキ科

Lithospermum erythrorhizon Siebold et Zucc.

形態 多年草。株全体に斜上する粗毛を生じ、草丈は40～70cm。根は太く紫色、薬用や染料とする。花は白色で径4mmくらいで、茎の上部につく。果実は灰白色で光沢がある。花期は6～9月。

生育環境 全国の各地に分布し、山地の草地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数5。草地開発、薬用採取、植生遷移による減少が懸念される。

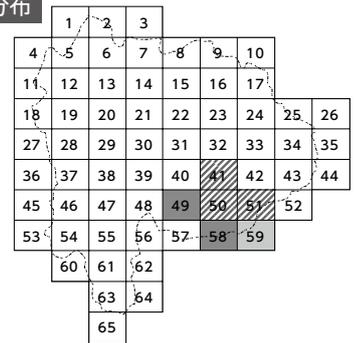
特記事項 具体的要件⑥

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



マメダオシ

ヒルガオ科

Cuscuta australis R.Br.

形態 1年草。蔓性寄生植物で茎は黄色で細く他のものに絡みつく。花冠の長さ2mmで5裂。花柱は2個で細く、長さ1mm。花期は7～10月。

生育環境 山野の道端や荒地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。人里近くに生える植物であり、除草や除草剤の使用により絶滅する危険性がある。

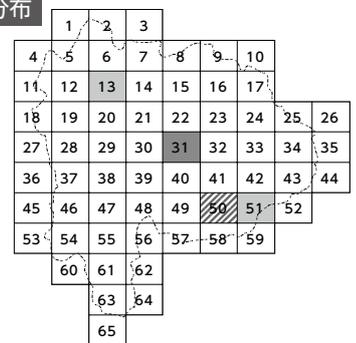
特記事項 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧IA類(CR)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



イヌノフグリ

オオバコ科

Veronica polita Fr. subsp. lilacina (T.Yamaz.) T.Yamaz.

形態 2年草。茎は下部で枝分かれして横に広がる。葉は茎の下部で対生、上部では互生し長さ、幅共に0.6～1cmの卵円形で、4～8個の鋸歯がある。上部の葉腋から長さ約1cmの花柄を出し、淡紅白色の花冠に紅紫の条のある小さな花を1個つける。花期は3～4月。

生育環境 畑や道ばた、石垣の間に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。個体数は少ない。畑雑草なので除草され、個体数の減少が著しい。

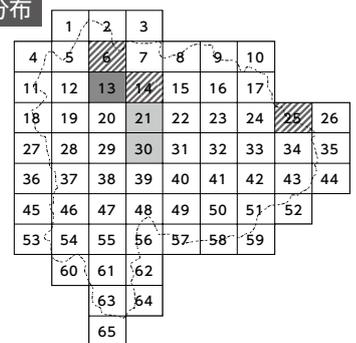
特記事項 2005年調査では出現メッシュ数5。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。具体的要件②⑥

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧II類(VU)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



ゴマノハグサ

ゴマノハグサ科

Scrophularia buergeriana Miq.

形態 やや湿った草原に生える多年草。根の一部は防水上に肥大する。茎は直立して90～150cm。葉は対生し、長さ1～2cmの柄があり葉身はやや厚く卵形。縁にやや尖った鋸歯がある。7～8月、茎の先に長さ20～40cmの細長い総状花序をつくり、やや密に多くの花をつける。花冠は黄緑色。

生育環境 草原に生育するが減少している。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数1。今回の調査で生育が確認された。草原の減少に伴って減少の危険性があるが、まとめて生育が確認されたのでIBとした。

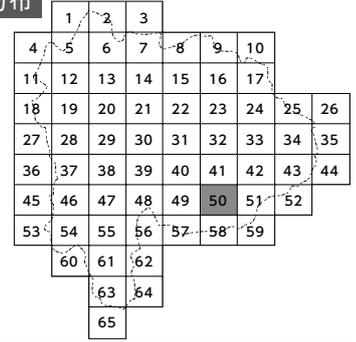
特記事項 2014年環境省カテゴリーII類。本県の状況から本種は今回の調査からIB類とした。具体的要件⑤

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧II類(VU)

2005：山梨県カテゴリー
なし

分布



植物
IB類

ニシキゴロモ シソ科

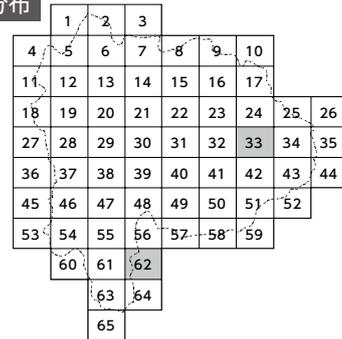
Ajuga yesoensis Maxim. ex Franch. et Sav.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 多年草。株全体に縮毛を生じ、茎は四角く数本叢生し、草丈は 8 ~ 15cm。葉は対生し有柄、葉身は長さ 2 ~ 6cm の長楕円形から広卵形、時に裏面は紫色を帯びる。花は淡紫色で上唇は長さ 2.5mm くらいで 2 裂、下唇は 3 裂し、葉腋に数個つく。花期は 4 ~ 5 月。変種のツクバキンモンソウ (*A. yesoensis* var. *tukubana*) は花冠の上唇が 1mm くらいと短く半円形。

生育環境 全国各地に分布し、丘陵地の林床などに生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 2005 年出現メッシュ数 2。シカの食害等で生育地が減少している。これまでの経過から IB とするが減少が心配される。

特記事項 「山梨の植物・1981 年 (昭 56) 植松春雄」によると「稀」と記載され、今回の調査では確認報告がなかった。 具体的要件①

キセワタ シソ科

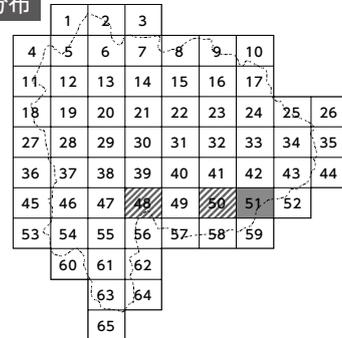
Leonurus macranthus Maxim.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 多年草。茎は四角く直立し、草丈は 60 ~ 100cm。葉は対生し有柄、葉身は長さ 5 ~ 9cm で狭卵形から卵形、先端は尖り基部は広くさび形。花は紅紫色、上部の葉腋に数個つき、花冠の外側は白毛が密生しているため白く見える。花期は 8 ~ 9 月。

生育環境 全国各地に分布し、山野の草地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 3。草地開発、自然遷移による減少が懸念される。

特記事項 具体的要件①②

マネキグサ シソ科

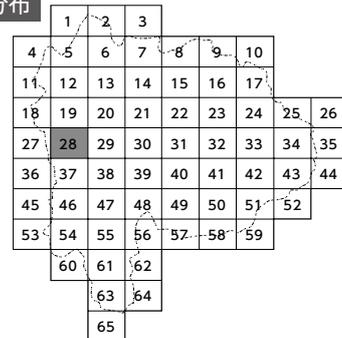
Loxocalyx ambiguus (Makino) Makino

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー
なし

分布



形態 多年草。草丈は 40 ~ 70cm。葉は対生し有柄、葉身は長さ 3 ~ 7cm の三角状広卵形から円形、切れ込みは浅裂から深裂する。花は葉腋に 1 ~ 3 個つき、花冠は長さ 18 ~ 20mm で暗紅紫色。葉の切れ込みが浅いものをマネキグサ、特に深いものをキレハマネキグサという。花期は 8 ~ 9 月。

生育環境 神奈川県以西に分布し、やや湿り気のある林床や林縁などに生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 1。個体数はかなり多い。

特記事項 2014 年環境省カテゴリー準絶滅危惧。本県の状況から本種は今回の調査から IB 類とした。 具体的要件⑤

キレハマネキグサ シソ科

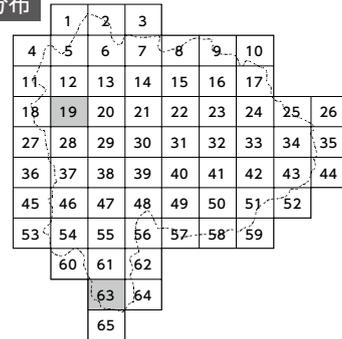
Loxocalyx ambiguus (Makino) Makino var. laciniatus H.Hara

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



形態 多年草。草丈は 40 ~ 70cm。葉は対生し有柄、葉身は長さ 3 ~ 7cm の三角状広卵形から円形、切れ込みは浅裂から深裂する。花は葉腋に 1 ~ 3 個つき、花冠は長さ 18 ~ 20mm で暗紅紫色。葉の切れ込みが特に深いものをキレハマネキグサ、浅いものをマネキグサという。花期は 8 ~ 9 月。

生育環境 神奈川県以西に分布し、やや湿り気のある林床や林縁などに生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 2005 年出現メッシュ数 2。自然遷移により自生地の環境が悪化し、個体数の減少が懸念される。

特記事項 今回の調査では報告がないが過去の記録により出現の可能性も有り、今後の継続調査が必要と判断し IB 類とした。 具体的要件①

カリガネソウ シソ科

Tripora divaricata (Maxim.) P.D. Cantino

形態 多年草。高さ1mほどになる。強い臭気がある。茎は四角で、葉は広卵形で、縁に鋸歯がある。葉腋から長い柄を持つ集散花序を出し、青紫色の花をまばらにつける。花冠は2唇形で、雄ずい4本、花柱と共に湾曲し長く外に突き出る。花期は8～9月。

生育環境 低山の林縁に生える。生育場所のごく普通のところに生えているが、生育箇所は少ない。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。個体数は少ない。土地開発などによる絶滅が危惧される。

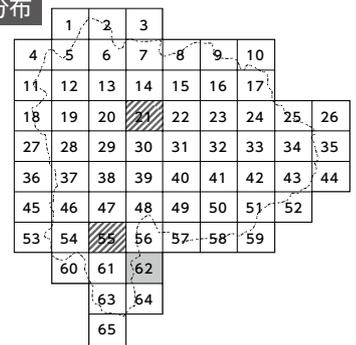
特記事項 山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例による採取規制。2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



ヤマウツボ ハマウツボ科

Lathraea japonica Miq. var. *japonica*

形態 全体白色でやや紫色を帯びる。根茎は分枝して多数の肉質の鱗片葉からなる。花茎の高さ10～30cm。花茎は直立してまばらに鱗片葉がある。4～5月、穂状に唇形花を多数つける。

生育環境 山地帯のやや湿気のある樹林下に生育。ブナ科、カバノキ科、ヤナギ科の植物の根に寄生。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。森林伐採や植生遷移による個体数の減少が懸念される。2005年調査では出現メッシュ数3であったのでこれまでの経過からIB類とした。

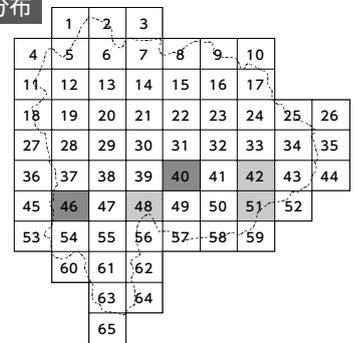
特記事項 これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



タカネママコナ ハマウツボ科

Melampyrum laxum Miq. var. *arcuatum* (Nakai) Soó

形態 半寄生の1年草。高さ10～20cm。葉身の長さ1～3cmで全縁、日当たりのよいところでは紅色を帯びる。苞に鋸歯がない。花の長さ10～15mmで、淡黄色。下唇の内側に2個の黄色の斑紋がある。花期は8～9月。

生育環境 県内では、秩父山地・甲斐駒ヶ岳などの山地帯～亜高山帯の林縁や岩上に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。個体数が少ない。自然遷移による減少が懸念される。

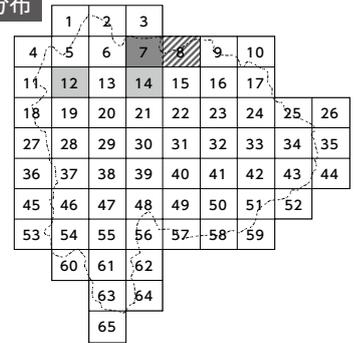
特記事項 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧II類(VU)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



エゾシオガマ ハマウツボ科

Pedicularis yezoensis Maxim. var. *yezoensis*

形態 多年草。高さ20～50cm。葉は三角状披針形で、縁に重鋸歯がある。花冠は黄白色で長さ1.5cm、上唇は細長く尾状に尖り、下唇は浅く3裂する。

生育環境 亜高山帯～高山帯の草地に生育。大きな群落を作らず点在。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。個体数は少なく点在する。自然遷移による減少が懸念される。

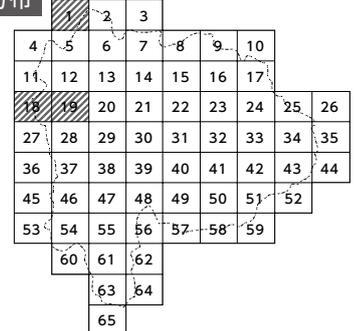
特記事項 具体的要件①④

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



植物
IB類

キヨスミウツボ ハマウツボ科

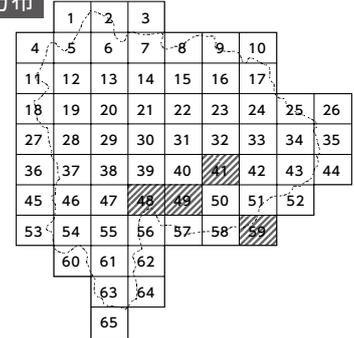
Phacellanthus tubiflorus Siebold et Zucc.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

分布



形態 1年生の寄生植物。茎の長さ5~10cm。全体肉質で白色だが、のちに黄色を帯びる。苞は長楕円形または狭卵形。花は白色で上唇は凹頭、下唇は3裂する。花期は6~7月。

生育環境 山地の樹林下に生育。ヤマアジサイやツルアジサイ等に寄生する。県内の自生地は富士山麓に偏る。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。植生の遷移や森林伐採による絶滅の恐れがある。

特記事項 2005年調査ではII類としたが今回からIB類とする。 具体的要件⑥

ヒキヨモギ ハマウツボ科

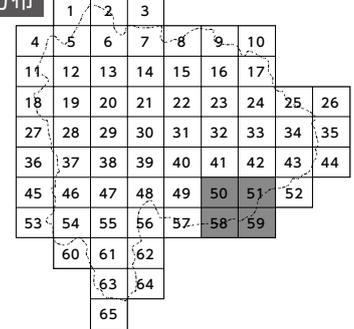
Siphonostegia chinensis Benth. ex Hook. et Arn.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
情報不足 (DD)

分布



形態 1年草。茎は直立し、上部がやや分枝して高さ30~70cmになり、全体に曲がった短毛が密に生える。葉は卵形で、長さ1.5~5cm、幅1~3cm、3片ほどの広線形の裂片に分かれ、下方の裂片はさらに少数の裂片に分かれる。花は枝先の葉腋に1個ずつつく。花冠は鮮黄色で長さ3cmほど、上唇の先は細くなり、先端は2裂する。花期は8~9月

生育環境 山地や丘陵の日当りのよい草原や林縁に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。本県の分布は富士山麓地域に偏っている。

特記事項 2005年調査では情報不足種としたが、今回の調査で4メッシュで確認があり個体数も検討してIB類とした。 具体的要件⑥

ハウオウシャジン キキョウ科

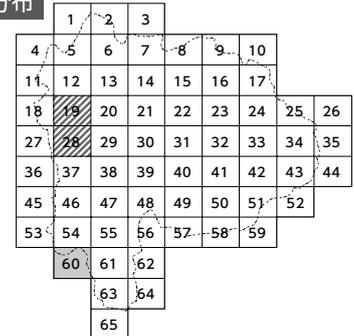
Adenophora takedae Makino var. howozana (Takeda) Sugim. ex J.Okazaki

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧I B類 (EN)

分布



形態 イワシャジンの高山型で全体が小型。葉は互生し、披針形から広線形。花は紫色で鐘形。総状花序で垂れ下がって咲く。イワシャジンと本種の間中型がある。花期は8~9月。

生育環境 岩上に生える多年草。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。鳳凰山から早川沿いの範囲に生育するが、採取圧により急激に激減。

特記事項 山梨県希少野生動物種の保護に関する条例による採取規制。2005年調査では出現メッシュ数3。 具体的要件①③

バアソブ キキョウ科

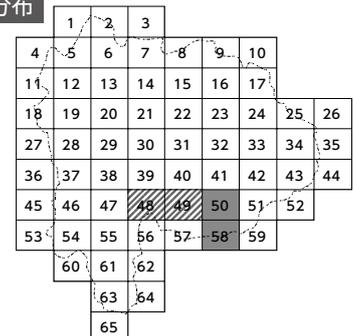
Codonopsis ussuriensis (Rupr. et Maxim.) Hemsl.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧I B類 (EN)

分布



形態 多年草。植物体を傷つけると乳液を出す。茎はつる性で2~3m伸び、根は塊状。葉は互生し有柄、葉身は2~4cmの卵形で先端は尖り、裏面は白毛を散生させる。花は淡褐紫色で長さ20~25mmの鐘状、内面は濃紫色の斑点を生じる。種子は翼がない。花期は8~10月。類似のツルニンジン (*C. lanceolata*) は全体的に大きく、葉の裏面は無毛で、種子に翼を生じる。

生育環境 全国各地に分布し、山地の林床などに生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。草地開発、自然遷移による減少が懸念される。

特記事項 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「少」と記載された。今回の調査でも出現メッシュ数4であった。 具体的要件②⑥

タカネヤハズハハコ キク科

Anaphalis lactea Maxim.

形態 多年草。雌雄異株。高さ10～20cm。花のつけない根生葉は長さ6～10cmで倒披針形。花のつける根生葉は小さい。茎の中部の葉は互生し、基部は茎に沿って下方に流れ短い翼になる。全体に白い綿毛がある。茎頂に頭花を散房状につける。総苞は球形。花期は8月。

生育環境 高山帯の草原に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。個体数は割りとある。自然遷移や踏みつけによる減少が懸念される。

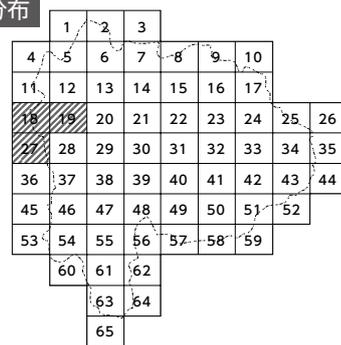
特記事項 具体的要件⑥

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



植物
IB類

キタダケヨモギ キク科

Artemisia kitadakensis H.Hara et Kitam.

形態 小低木。茎は叢生する。茎は20～30cm、銀白色の絹毛がある。茎葉は1～2回3全裂し、終裂片の幅は1mm以下。頭花の花柄の長さ0.6～1.3cmで、下向きにつける。総苞片は4列。花期は7月下旬から8月。

生育環境 高山帯の岩場に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2ではあるが、個体数はわりと多い。踏みつけや自然遷移による絶滅が危惧される。

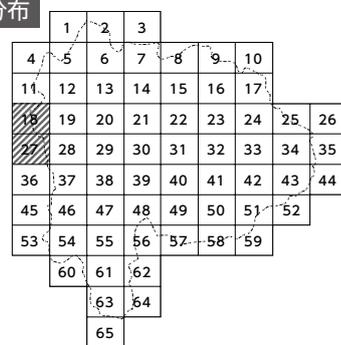
特記事項 個体数が多いので今回の調査ではIA類からIB類とした。 具体的要件⑤

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IA類(CR)

分布



タウコギ キク科

Bidens tripartita L. var. tripartita

形態 1年草。茎には毛が無く、高さは30～100cmになる。葉は複葉ではない。枝先に大きき25～30mmの黄色の頭花をつける。頭花は筒状花だけで、葉状になった総苞片に囲まれる。花期は8～10月。

生育環境 田や畦、水湿地、湖沼の砂地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数6。湿地植物なので湿地整備などで消滅の恐れがある。

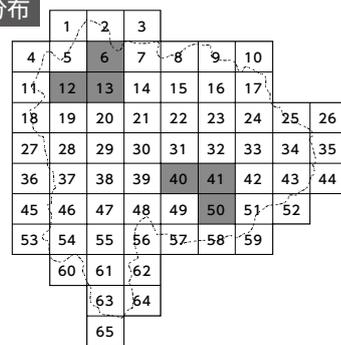
特記事項 2005年には調査がいきとどかず情報不足としたが、今回の調査では水田雑草なので確認できた。出現メッシュ数、個体数から判断してIB類とした。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
情報不足(DD)

分布



エゾムカシヨモギ キク科

Erigeron acris L. var. acris

形態 多年草。茎の高さ15～50cmで、やや密に白毛がある。茎の下部の葉は倒披針形で柄に翼があり、両面に白毛がある。中部の葉は線状長楕円形。基部を抱く。頭花は散房状または円錐花序となる。花期は8月。

生育環境 高山帯の砂礫地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。個体数はわりと多い。土地崩壊、自然遷移による絶滅が危惧される。

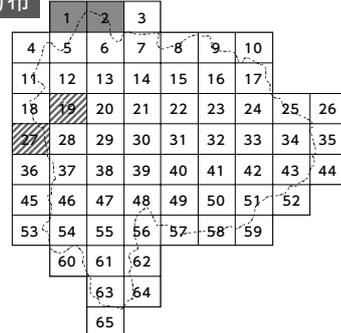
特記事項 2005年調査では出現メッシュ数2でIA類としたが、今回の調査で出現メッシュ数4となりIB類とした。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IA類(CR)

分布



オオモミジガサ キク科

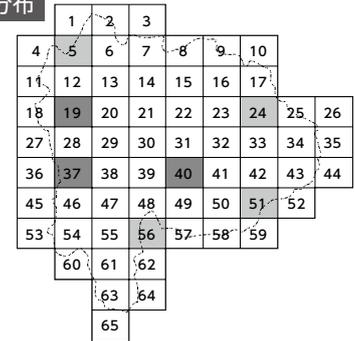
Miricacalia makinoana (Yatabe) Kitam.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

分布



形態 多年草。茎は高さ0.6～1.2mになり、全体に縮れた毛がある。茎葉は2～3個が互生し、下部の葉は長い柄をもち、円形で幅25～30cm、掌状に浅裂する。頭花は総状花序につく。花は全て筒状花からなる。花冠は黄色い。日本特産で1種のみ。花期は7～9月。

生育環境 山地帯の落葉広葉樹林床に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。生育地での個体数は少ない。生育地の植生変化により、個体数の減少が懸念される。2005年調査では出現メッシュ数4。よって今回からII類のランクをIB類に変更した。

特記事項 具体的要件②

ヒメヒゴタイ キク科

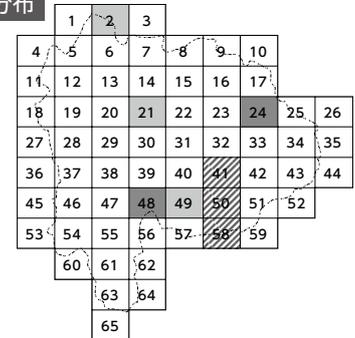
Saussurea pulchella (Fisch.) Fisch.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

分布



形態 2年草。茎は直立して30～150cm。下部の葉は深く羽裂し両面に毛があり下面に腺点がある。茎の上部はよく分岐して、多数の頭花をつける。総苞片の先は膜質で、淡紅色の付属体がある。花期は8～10月。

生育環境 山地帯のやや乾燥した草原に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数5。草原の環境変化による減少が懸念される。

特記事項 出現メッシュ数、個体数の減少に伴い2005年調査時のII類からIB類とした。 具体的要件②

キクアザミ キク科

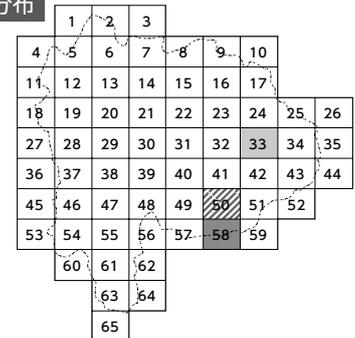
Saussurea ussuriensis Maxim. var. ussuriensis

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

分布



形態 多年草。高さ30～120cm。根生葉は長い柄があり、葉身は卵形で、羽状浅～中裂する。頭花は散房状につく。上頭花は9月頃咲き、総苞片は12～13mmでクモ毛があり、先は尖る。花期は9～10月。

生育環境 山地の日当たりの良い草原に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。草原の環境変化による減少が懸念される。

特記事項 具体的要件①

チシマヒョウタンボク スイカズラ科

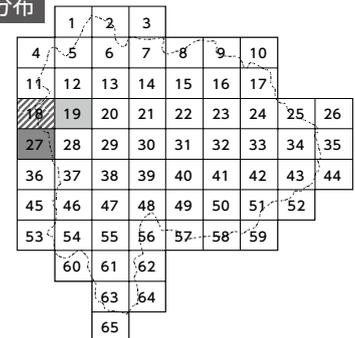
Lonicera chamissoi Bunge

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

分布



形態 落葉小低木。高さ1m以内。葉は楕円形で2～7cm、両端とも丸みがある。花は2唇形で、暗紫色、長さ8～12mm。花期は6～8月。果実は赤色で2個がほとんど合着している。

生育環境 亜高山帯の草地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。個体数は比較的多い。雪崩など自然環境の変化による絶滅が危惧される。

特記事項 生育地が限られているため今回の調査ではIB類とした。 具体的要件②

ニッコウヒョウタンボク スイカズラ科

Lonicera mochidzukiana Makino var. *mochidzukiana*

形態 落葉低木。高さ1～2mで、枝は中実。葉は対生し、葉の長さ3～10cm、幅2～6cmの卵形～卵状披針形。先は次第に尖り、葉裏はやや粉白を帯びる。5月～6月葉腋から花柄をだし、上向きに2個ずつ花をつける。はじめ白色、後淡黄色。果実は2個が合着する。

生育環境 山地帯の林縁や低木林中に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。生育箇所は限られていて、個体数は少ない。森林環境変化による個体数の減少が懸念される。

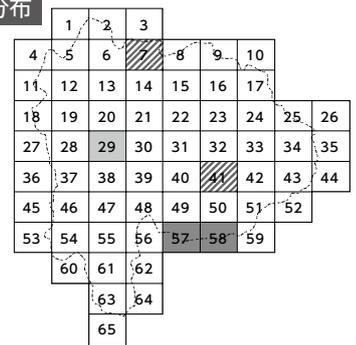
特記事項 具体的要件②⑥

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



ハヤザキヒョウタンボク スイカズラ科

Lonicera praeflorens Batalin var. *japonica* H.Hara

形態 落葉低木。高さ1～2m。葉は対生。長さ3～6cm、幅2～4cmの卵形。裏面や葉のふちには開出する軟毛が多い。花期は4～5月。葉の展開前に花柄を出し、白色の花を2個ずつ下向きにつける。雌しべは雄しべより短い。果実は液果。径6～10mmの球形。2個並ぶが合着はしない。6月に赤く熟す。

生育環境 山地帯の林縁に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。個体数が少ない。森林整備による個体数の減少が懸念される。

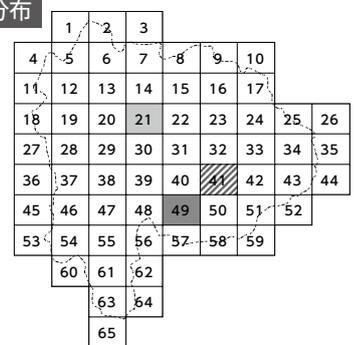
特記事項 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



コウグイスカグラ スイカズラ科

Lonicera ramosissima Franch. et Sav. ex Maxim. var. *ramosissima*

形態 落葉低木。葉は円形～長楕円形で、両面軟毛が多い。花は漏斗状で淡黄色。液果は普通2個合着。

生育環境 山地帯草地。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数1。個体数は少ない。森林伐採による絶滅が危惧される。

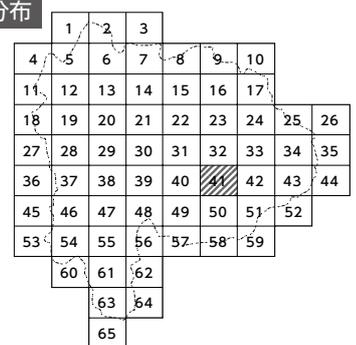
特記事項 本種の品種、チチブヒョウタンボク（ミツウゲヒョウタンボク）*f.glabrata*(Nakai)H.Haraは、ここでは同一扱いとした。 具体的要件②④

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



オオヒョウタンボク スイカズラ科

Lonicera tschonoskii Maxim.

形態 落葉低木。高さ1～2m。枝は中実。葉は対生。長さ5～14cm、幅3～5cmの楕円形～長楕円形。花は7～8月、葉腋から花の主脈に沿って花柄を伸ばし、2個ずつ花をつける。花冠は唇形で長さ約1.3cmほど。

生育環境 亜高山帯林縁に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。自然遷移や雪崩などの地形変化による個体数減少が懸念される。

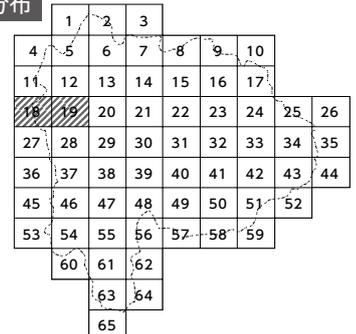
特記事項 シカの食害による減少が今回の調査でも顕著である。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

分布



植物
IB類

ヤマナシウマノミツバ セリ科

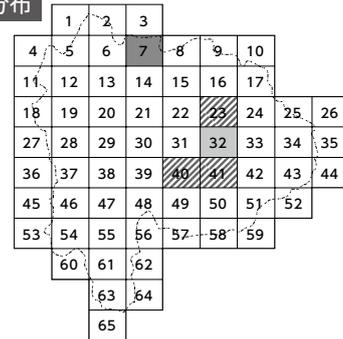
Sanicula kaiensis Makino et Hisauti

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧IB類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

分布



形態 多年草。葉には長い柄があり、白軟毛を密生し掌状に深く7~9裂する。新葉とともに10cm程度の花茎を出し紫紅色の花を数輪つける。花期は5月。

生育環境 山地帯から亜高山帯にかけての湿気のある岩場に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。分布域は広く、絶滅の危険性は直ちにはないとものと思われるが、環境の改変によっては減少が懸念される。

特記事項 具体的要件⑥

I B 類
II 類
植物
植物

アスヒカズラ ヒカゲノカズラ科

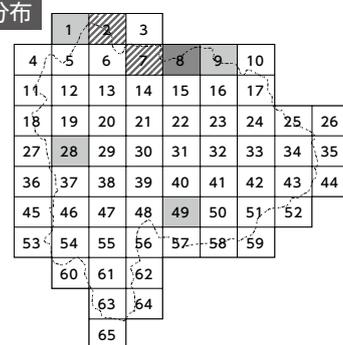
Lycopodium complanatum L.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

分布



形態 常緑性。茎は地上を匍匐し、所々に短い根を出す。側枝は斜上し高さ10~20cm、通常扇形になる。直立茎の小枝は扁平、葉とともに表面は緑色、裏面は淡緑色。孢子嚢穂は、3~10cmの長さの分枝した柄に1~5個を直立に着ける。

生育環境 県内では山地帯上部~亜高山帯の日当たりの良い樹林下に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。個体数は少ない。

特記事項 2005年調査では出現メッシュ数6。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件③

ミヤマウラジロ イノモトソウ科

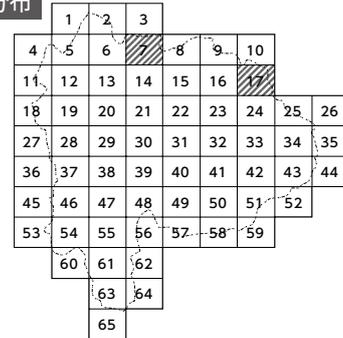
Cheilanthes brandtii Franch. et Sav.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

分布



形態 夏緑性。根茎は太く短く斜上し、葉を叢生する。葉は長さ20~40cm、葉柄は紫褐色の針金状で折れやすい。葉面の表は、淡緑色の草質、裏は淡い白色を帯びている。葉身は、広被針形、2回羽状複葉。孢子嚢群は、羽片の縁が裏面に折れ、ほとんど隙間無く着く。

生育環境 石垣などの割れ目に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。生育地での個数は少なくない。

特記事項 具体的要件②

アマクサシダ イノモトソウ科

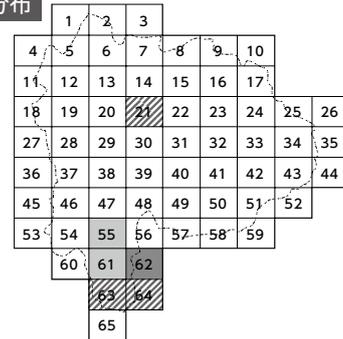
Pteris semipinnata L.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

分布



形態 常緑性。根茎は短く斜上し、鱗片を密生する。葉柄は光沢のある赤褐色、切り口は三角状。葉身は、2回羽状深裂、紙質、長さ25~40cm中軸は光沢のある赤褐色。頂羽片は大きく、羽状全裂。側羽片は3~6対下側が上側よりやや幅が広く、上側の裂片の一部が欠けることがある。最下羽片の下側に羽状全裂の小羽片を着ける。孢子嚢群は葉縁を反転させ孢子を包む。

生育環境 林縁の日当たりの良い場所に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。生育地での個体数は少ない。

特記事項 山梨県内に点々と存在する。 具体的要件①

オオバノハチジョウシダ イノモトソウ科

Pteris terminalis Wall. ex J. Agardh var. *terminalis*

形態 常緑性（県内では冬枯れる事が多い）。根茎は太く塊状で匍匐し、鱗片をまばらに着ける。葉は叢生し、1～2mになる。葉柄は長く、葉身とほぼ同じ。葉身は、長楕円状卵形、2回羽状複葉、羽片はほぼ対生する。小羽片はほぼ羽軸まで切れ込み、先端は尾状に長くのびる。最下羽片の外側の最下小羽片は、特にのびる。孢子嚢群は葉縁を反転させ胞子を包む。

生育環境 沢沿いの日当たりの良い林下に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。生育地の個体数は少ないが4メッシュ出現のためⅡ類とした。分布限界種。

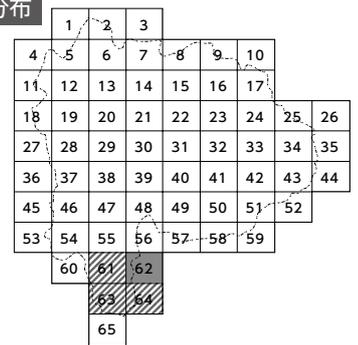
特記事項 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類（EN）

分布



ナヨシダ ナヨシダ科

Cystopteris fragilis (L.) Bernh.

形態 常緑性。根茎は短く這い、葉を接してつける。葉は長さ10～30cm。葉柄はわら色から褐色で、葉身より短い。葉身は柔らかい草質で淡緑色、2回羽状複葉～3回羽状深裂。長楕円状披針形で下部は中部より、わずかに狭い。孢子嚢群は小羽片の辺縁寄りにつく。

生育環境 山地帯～亜高山帯のやや湿潤な岩の割れ目に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。群生しないが、生育箇所点々とある。

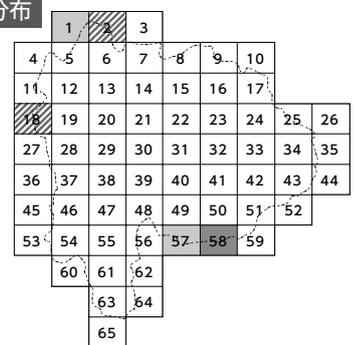
特記事項 2005年調査では出現メッシュ数4。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

分布



コモチシダ シシガシラ科

Woodwardia orientalis Sw.

形態 常緑性。根茎は太く匍匐し、密に鱗片をつけ、葉を叢生する。葉は長さ1～2mになる。葉柄は太く、基部には密に鱗片を着ける。葉身は2回羽状中裂～深裂で、ほぼ全縁、広卵形、厚みのある革質。葉の表面に、無性芽を着ける。孢子嚢群は、狭い長楕円形で、裂片主脈の両側に沿って着く。

生育環境 林縁の斜面や崖などの日当たりのよい場所に、垂れるように生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数5。生育箇所は比較的多くある。分布限界種。

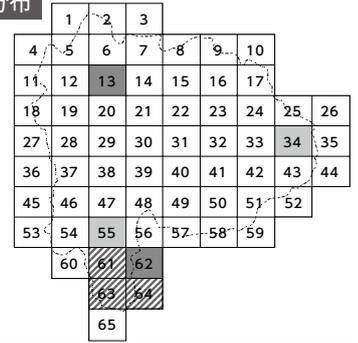
特記事項 2005年調査と出現メッシュ数は同じだが、個体数の関係で今回はⅡ類とした。具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
準絶滅危惧（NT）

分布



ハシゴシダ ヒメシダ科

Thelypteris glanduligera (Kunze) Ching

形態 常緑性。根茎は長く、地中を横走する。葉は30～60cm。葉柄はわら色、有毛、基部には暗色の鱗片をつける。葉身は1回羽状複葉、披針形、基部がもっとも幅が広いが、やや狭くなる。葉質は、薄くやわらかい紙質から革質、緑色から黄緑色、葉面に毛はない。孢子嚢群は、裂片の辺縁近くに着く。

生育環境 林下や林縁の日当たりのよい、やや乾燥した土手に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。生育地での個体は少ない。

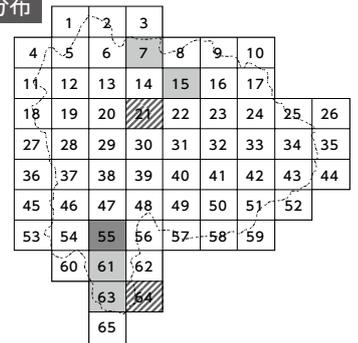
特記事項 2005年調査では出現メッシュ数6。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。具体的要件③

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

分布



カラフトメンマ

オシダ科

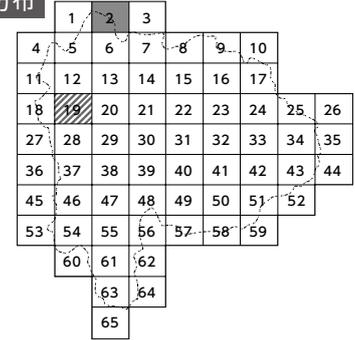
Dryopteris coreanomontana Nakai

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



形態 夏緑性。根茎は太く塊状となり、葉を叢生する。葉は長さ120cm前後に達する。葉身は2回羽状深裂、卵状長楕円形、柔らかい厚紙質で淡い緑色。孢子嚢群は、中肋寄りに並ぶ。オシダによく似ているが、葉柄の上部や中軸の鱗片がまばらで、色も薄く、淡い茶色である。

生育環境 亜高山帯から高山帯の沢沿いの日当たりのよい草地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。生育地での個体数は多い。

特記事項 具体的要件②

ホテイシダ

ウラボシ科

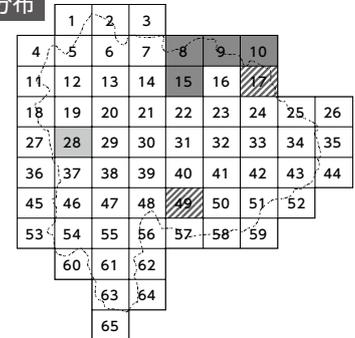
Lepisorus annuifrons (Makino) Ching

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



形態 夏緑性。根茎は長く横走り、やや密に鱗片をつける。葉身は単葉、披針形、下部のほう幅が広く、草質は薄く、淡い緑色をしている。葉柄は緑色～わら色、基部に鱗片がある。孢子嚢群は中肋寄りにつく。

生育環境 山地の巨木落葉樹の樹幹や岩上に生育する。巨木では群落をつくる事が多い。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数6。生育地が落葉樹の森林伐採により著しく減少している。

特記事項 具体的要件①

サジラン

ウラボシ科

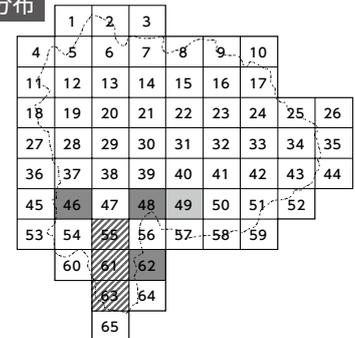
Loxogramme duclouxii H.Christ

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



形態 常緑性。根茎は長く横走る。葉の長さは25cm前後になる。葉身は単葉、倒披針形、中央から上部4分の1くらいの間で幅が最大になる。草質はやや厚い草質、暗緑色で無毛。葉柄は短い、基部に鱗片がある。孢子嚢群は、葉身の上半分について斜上し、長さ4cmくらいに達し、互いが平行してつく。

生育環境 山地林下の樹幹や岩の斜面にコケとともに着生。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数6。生育地での個体数は減少している。

特記事項 具体的要件①

シキミ

マツブサ科

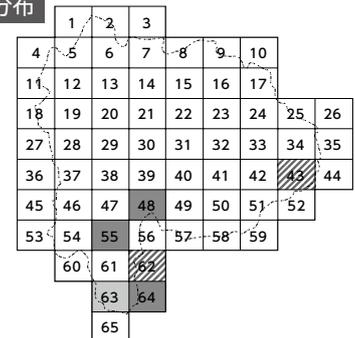
Illicium anisatum L. var. *anisatum*

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



形態 常緑小高木。樹高は2~5m。葉は互生し有柄、葉身は長さ4~12cmの倒卵状長楕円形から倒針形、鋭頭、肉厚で革質、透かすと油点が見える。花は葉腋より出し、花被片は10~20枚で黄白色、光沢がある。果実は径2~3cmで扁平な八角形、種子は黄褐色で光沢がある。花期は3~4月。

生育環境 宮城県以西の暖地に分布し、林内に生育。県南部のみ。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数5。県内での生育地は限られ、森林伐採による個体数の減少が心配される。

特記事項 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると寺院や墓地などで「普通」に植栽と記載されている。今回の調査では出現メッシュ数5となった。 具体的要件①

Ⅱ 植物

サネカズラ マツバサ科

Kadsura japonica (L.) Dunal

形態 常緑つる性植物。雌雄異株。葉は互生し有柄、葉身は長楕円形で長さ4～10cm、やや革質、表面は光沢があり、低い鋸歯がある。花は広鐘状、葉腋より垂れ下がる。花被片は8～17枚あり、黄白色。果実は集合果で径2～3cmの球形、秋に紅熟する。花期は8月。

生育環境 関東以西に分布し、日当たりのよい暖地の林内に生育する。県内では身延町以南に分布。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。県内での生育地は限られているため、個体数の減少が心配される。

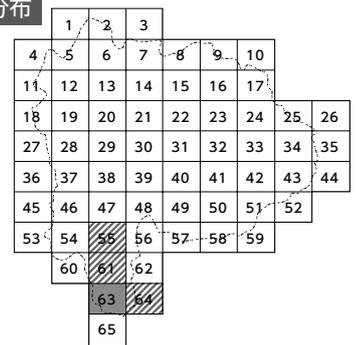
特記事項 「山梨の植物・1981年（昭56）植松春雄」によると「稀」と記載されている。今回の調査では出現メッシュ数4となった。植栽が目立つ。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



カギタアオイ ウマノズクサ科

Asarum curvistigma F.Maek.

形態 冬緑性多年草。茎は短く地上を這う。葉は長い柄があり卵状楕円形、基部は深い心臓形、白斑を生ずる場合もある。花は淡紫色。花柱の上部は2裂せず、先端がやや直角に外方に曲がる。花期は9～10月。

生育環境 暖地の明るい樹林下に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。自然の遷移や環境の改変が減少に直結することが考えられる。

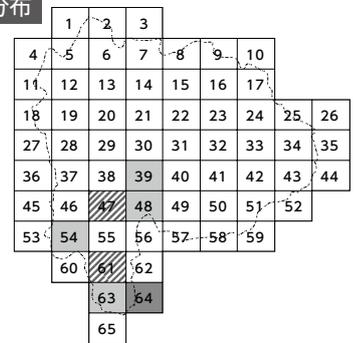
特記事項 2005年調査では出現メッシュ数6。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



カナクギノキ クスノキ科

Lindera erythrocarpa Makino

形態 落葉高木。雌雄異株。葉は互生し有柄、葉身は長さ6～13cmの倒披針形、表面は無毛。花は葉と同時に開き黄緑色、散形状につき、雄花は長さ3mmくらい、雌花はやや小さい。果実は径6～7mmの球形、秋に紅熟する。花期は4～5月。類似のクロモジは果実が黒紫色に熟す。

生育環境 箱根以西の暖地に分布し、林内に生育する。県内では南部町以南に生育するが個体数は少ない。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。県内での生育地は限られ、森林伐採による個体数の減少が心配される。2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から過去に報告のあった場所にも生育が考えられる。

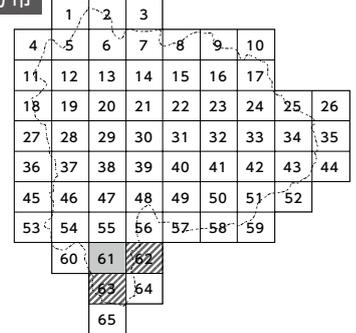
特記事項 「山梨の植物・1981年（昭56）植松春雄」によると「少」と記載されており、今回の調査では出現メッシュ数2となった。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



カゴノキ クスノキ科

Litsea coreana H.Lév.

形態 常緑高木。雌雄異株。幹の周皮は鹿子模様にはげ落ちる。葉は互生し有柄、葉身は長さ5～9cmの倒ひ針形、全縁で鈍頭、薄い革質。花は葉腋につき黄色、雄花序はやや大きく、雌花序は小さい。果実は長さ7～8mmの倒卵状球形、翌年の秋に紅熟する。花期は9月。

生育環境 関東、福井県以西の暖地に分布し、林内に生育する。県内では南部町以南に分布。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。県内での生育地は限られ、森林伐採による個体数の減少が心配される。

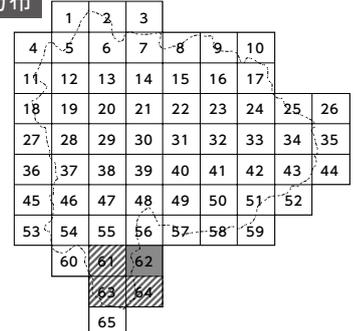
特記事項 「山梨の植物・1981年（昭56）植松春雄」によると「稀」と記載されている。今回の調査では出現メッシュ数4である。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



アギナシ

オモダカ科

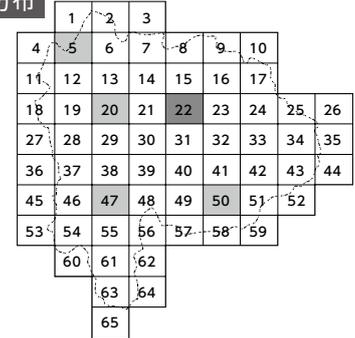
Sagittaria aginashi Makino

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



形態 オモダカによく似ているが、葉身が細く、基部の裂片は頂裂片よりやや短くて、先端はとがらず、まるみを帯びている。また匍枝をださず、葉柄の基部の内側に多数の小さな球茎をつけるのが特徴。

生育環境 泥湿地や水田に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 1。今回の調査では出現メッシュ数 1 だが、本種は県下の水田に分布が点在されると判断されるのでⅡ類とした。

特記事項 2005 年調査では出現メッシュ数 4 であった。これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的な要件②

フトヒルムシロ

ヒルムシロ科

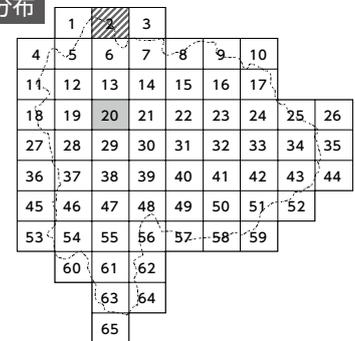
Potamogeton fryeri A.Benn.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



形態 多年草。地下茎は泥の中を横に這い、先端に越冬芽をつける。浮水葉の葉身基部は円形～浅心形で縁が葉柄にそって流れ、波形のしわをつくる。花は 2.5 ~ 5cm、穂状花序を直立する。花期は 6 ~ 10 月。

生育環境 池や沼の水中に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 1。分布域が限られている。自然遷移による絶滅が危惧される。

特記事項 2005 年調査では出現メッシュ数 2。これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的な要件②

エビネ

ラン科

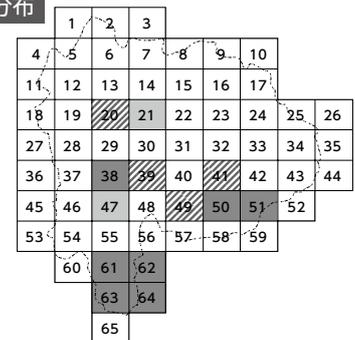
Calanthe discolor Lindl. var. discolor

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



形態 偽球茎は球形。葉は 2 ~ 3 個。花茎の高さ 15 ~ 40cm。花被片は紫褐色～帯緑色まで多様。唇弁は扇形で 3 深裂し、帯紫白色。中央に 3 条の隆起線がある。花期は 4 ~ 5 月。

生育環境 やや湿った低山の林床に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 11。全県に分布していると思われるが、生育個体数は減少。採取、森林伐採、土地開発による個体数の減少が進んでいる。

特記事項 具体的な要件①

ギンラン

ラン科

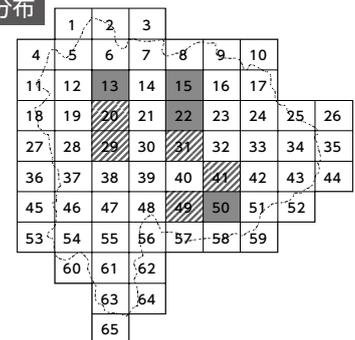
Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. erecta

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



形態 茎は直立し 20 ~ 30cm。葉は 3 ~ 6 個互生。5 月頃、茎頂に 3 ~ 10 個の白色花をつける。花は上向きに咲き平開しない。唇弁は漏斗状で、基部は短い距となる。

生育環境 山地の樹林下に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 9。山林の伐採や採取による減少が懸念される。出現メッシュ数は多いが個体数が少ないため継続してⅡ類とした。

特記事項 具体的な要件①

サイハイラン ラン科

Cremastra appendiculata (D. Don) Makino var. *variabilis* (Blume) I. D. Lund

形態 偽球形は地下浅くやや離れて数個が横に連なって付き、葉は皮質で3本の主脈が目立つ。開花後、葉は枯れて秋に新葉を出し越冬する。花茎は30～50cm。茎頂に穂状に垂れ下がった淡紫色の花をつける。唇弁は長さ3cmで紅紫色の斑紋がある。

生育環境 低山帯～山地帯のやや湿り気のある沢沿いや河畔の樹林内を好んで生え小群落をつくる。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数5。採取圧や生育環境の変化による減少の危険性がある。生育地の個体数が少ないため、準絶滅危惧からII類に変更した。

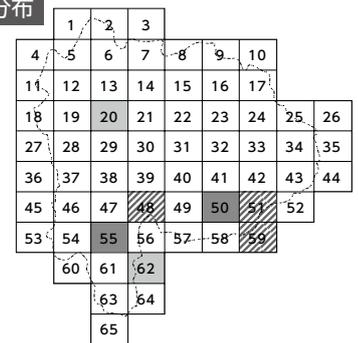
特記事項 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

分布



アオチドリ ラン科

Dactylorhiza viridis (L.) R. M. Bateman, Pridgeon et M. W. Chase

形態 地中に紡錘根を持ち、茎の高さ15～30cm。葉は長楕円形で2～3枚が互生し、茎の上部に多数の花をつける。長い苞葉が目立つ。萼片の長さ7～8mm。唇弁は紅紫色を帯び下垂する。

生育環境 山地帯～亜高山帯の草地や疎林内に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数6。植生遷移による減少が懸念される。

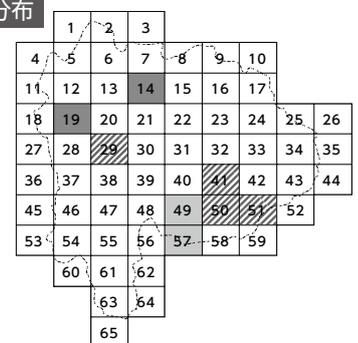
特記事項 今回よりタカネアオチドリはアオチドリとして確認していくこととした。よって2005年にI A類としたタカネアオチドリは削除し併せてII類とした。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

分布



カモメラン ラン科

Galearis cyclochila (Franch. et Sav.) Soó

形態 根茎は紐状で地中浅く横に這う。葉は広楕円形で地表近くに1枚つける。花茎は直立し10～15cm。5～6月頃茎頂に淡紅色の花を普通2個つけるが、稀に3～5個つけるものもある。唇弁は広卵形で両側はやや波打ち赤紫色の斑紋があり、先は浅く3裂する。距は細く後方に反り返る。花期は5～6月。

生育環境 山地の湿り気が多い疎林内や林縁に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数7。シカの食害、採取圧、生育地の森林伐採などによる絶滅が危惧されるため継続してII類とした。

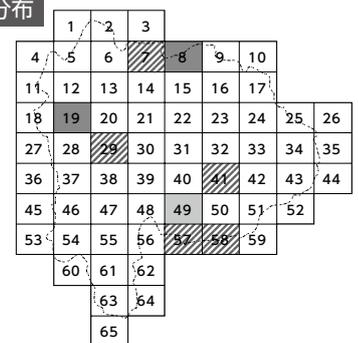
特記事項 山梨県希少野生動物種の保護に関する条例による採取規制。過去に富士山地域では林道の拡幅工事によって大規模なコロニーが絶滅した経緯があり、開発には適切な環境影響調査などの対応が必要。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

分布



オニノヤガラ ラン科

Gastrodia elata Blume var. *elata*

形態 菌従属栄養植物。地下に肥大した楕円状、球形の塊根から直立した花茎を出し、茎頂に総状に褐色の花をつける。緑色花をつけるものを、アオテンマと言う。

生育環境 山地帯の落葉広葉樹林に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数9。2005年調査では情報不足としたが、今回の調査で確認ができII類とした。

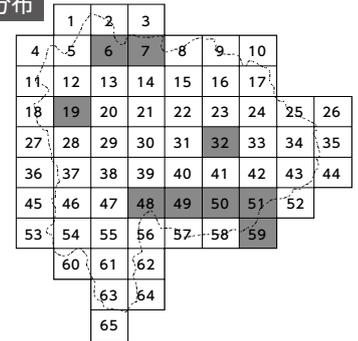
特記事項 茎全体が緑色のものをアオテンマ f. *vinidis* (Makino) Makino ex Tuyama 茎は短く花が帯白色のものをシロテンマ var. *pallens* Kitag というが、今回の報告では、本種内に含めて扱った。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
情報不足 (DD)

分布



II 植物

テガタチドリ ラン科

Gymnadenia conopsea (L.) R.Br.

形態 紡錘根は扁平で手のひら型。茎は直立し 20 ~ 50cm。葉は楕円形~狭長楕円形で 3 ~ 6 枚互生し、茎の上方に淡紅紫色の花を総状に多数つける。唇弁の先は 3 裂する。花期は 7 ~ 8 月。

生育環境 亜高山帯~高山帯の日当たりの良い草原に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 9。各メッシュでの個体数は少ない。採取圧や植生遷移による減少が懸念される。出現メッシュ数 9 だが、継続して II 類とし、今後も継続調査を行う。

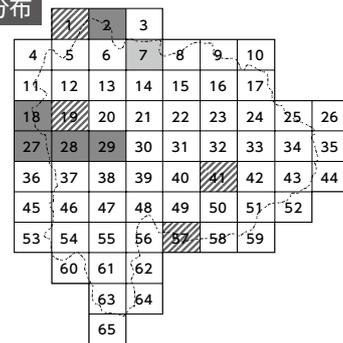
特記事項 具体的要件①

2018 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

2017 : 環境省カテゴリー
なし

2005 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

分布



ジガバチソウ ラン科

Liparis krameri Franch. et Sav. var. krameri

形態 偽球は地上生。広卵形の葉を 2 枚互生し、葉脈の網目模様が目立つ。花茎は高さ 10 ~ 20cm。花茎に 5 ~ 10 個の淡緑色~暗紫褐色の花をつける。唇弁は上部が反曲し縁に微鋸歯がある。

生育環境 低山帯~山地帯の林内や崖、岩石地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 1。2005 年出現メッシュ数 4。これまでの経過から絶滅危惧 II 類とする。園芸採取や植生遷移による減少が懸念される。

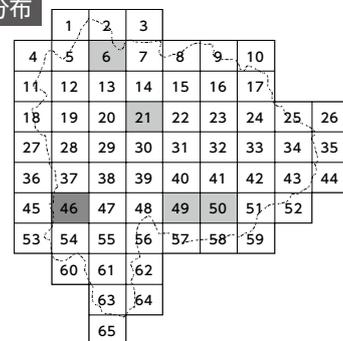
特記事項 過去に報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①

2018 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

2017 : 環境省カテゴリー
なし

2005 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

分布



ヒメムヨウラン ラン科

Neottia acuminata Schltr.

形態 無葉緑菌従属栄養植物。根は束生。地上茎は高さ 10 ~ 20cm。数個の膜質鞘状葉がある。総状花序。淡褐色の花をやや疎らにつける。唇弁は三角状卵形尖頭。花期は 6 ~ 8 月。

生育環境 亜高山帯の針葉樹林の林床に生育する。日本の分布は北海道、中部以北で、富士山は分布の南限にあたる。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 7。踏みつけや森林伐採による減少が懸念される。出現メッシュ 7 だが、継続して II 類とし、今後も継続調査を行う。

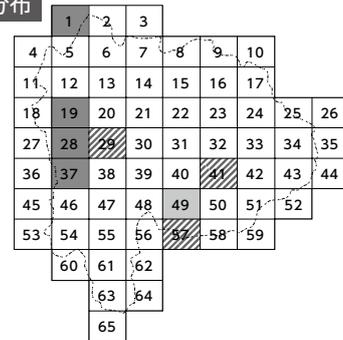
特記事項 本県富士山の生育地は分布南限。(日本では中部以北、北海道に分布。) 具体的要件①

2018 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

2017 : 環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

分布



タカネフタバラン ラン科

Neottia puberula (Maxim.) Szlach.

形態 茎の高さ 15 ~ 20cm。三角状卵形の 2 枚の葉を対生。花梗に細かい腺毛と 2 ~ 3 個の鱗片葉があり、花柄の先に 5 ~ 10 個の淡黄緑色の花をつける。唇弁の基部に耳状の裂片はなく、先は浅く 2 裂し、裂片の先は尖らない。

生育環境 亜高山の針葉樹林の林床に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数 5。個体数はやや少ない。踏みつけや植生遷移による減少が懸念される。

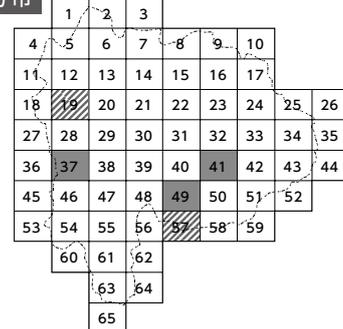
特記事項 2005 年調査では出現メッシュ数 2 だが、今回の調査で増加の傾向が見られたので I B 類を II 類に変更した。 具体的要件①

2018 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

2017 : 環境省カテゴリー
なし

2005 : 山梨県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



ヨウラクラン ラン科

Oberonia japonica (Maxim.) Makino

形態 樹幹や岩面に着生する小型の暖地性着生ラン。茎は短い。葉は小さく、左右に扁平状で密に2列に互生し、やや肉質で、先は急にとがる。茎頂に細長い花序を出し、花茎約1mmの小さな淡黄褐色の花を多数つける。花期は4～6月。

生育環境 関東以西の暖地の川沿い、沢沿いの樹幹や岩面に着生。県内では身延町以南で生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数3。個体数は多いのでⅡ類とした。環境の改変によっては減少が懸念される。

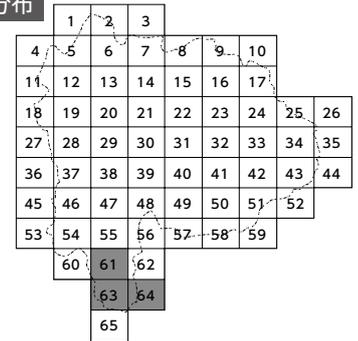
特記事項 2014年環境省カテゴリには入っていないが、本県の状況から今回の調査よりⅡ類とした。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリ
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリ
なし

2005：山梨県カテゴリ
なし

分布



ミズチドリ ラン科

Platanthera hologlottis Maxim.

形態 茎は高さ40～60cm葉は線状被針形で下部の葉は大きく、上部は苞となる。茎の上部に白色花を密につけ芳香があるので、別名ジャコウチドリともいう。唇弁は舌状で6～8mm、距は細く下垂し、長さ10～12mm。花期は6～7月。

生育環境 山地の日当たりの良いやや湿った草地や湿地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数6。園芸採取・植生の遷移による減少が危惧される。

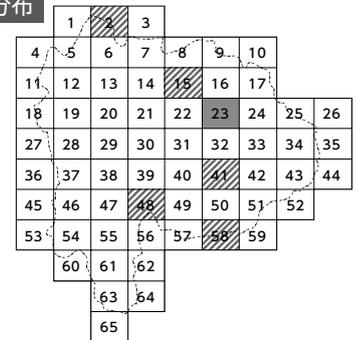
特記事項 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリ
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリ
なし

2005：山梨県カテゴリ
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



ヤマサギソウ ラン科

Platanthera mandarinorum Rchb.f. subsp. mandarinorum var. oreades (Franch. et Sav.) Koidz.

形態 根茎は一部が肥厚する。茎は高さ20～40cm。葉は線状長楕円形、長さ5～12cm。花は淡緑色。唇弁は長さ5～6mm、距は下方か後方に曲がり、長さ15～20mm。花期は5～7月。

生育環境 山地の林床や草地に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数5。生育地の草地環境の維持が必要。(下草刈り、野焼き等の草地保全策を検討する必要がある。)

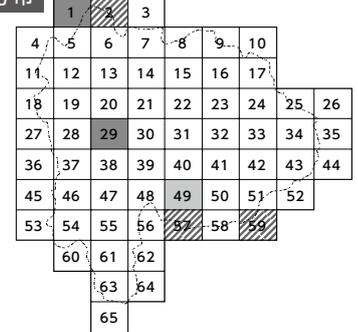
特記事項 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリ
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリ
なし

2005：山梨県カテゴリ
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



ヒツボクロ ラン科

Tipularia japonica Matsum.

形態 球状に肥厚した偽球から1枚の葉と1茎をだす。葉柄は3～7cm、葉身は狭卵形で先は尖り基部は心形、裏面は紫色を帯びる。表面に暗黄色の条が入る。茎の上方に小さな花を疎らに5～10個つける。葉は夏に枯れ秋に新葉を出して越冬する。花期は5～6月。

生育環境 山地帯のアカマツ林のような明るい林床に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数8。個体数は少なく、点在し群生することはない。踏みつけや森林伐採、植生遷移による絶滅が危惧される。

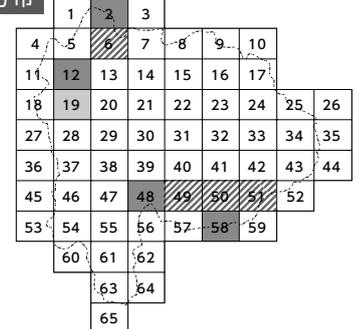
特記事項 2005年調査より出現メッシュ数が増えたため(5から8)ⅠB類からⅡ類へ変更した。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリ
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリ
なし

2005：山梨県カテゴリ
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

分布



Ⅱ 植物

キツネノカミソリ ヒガンバナ科

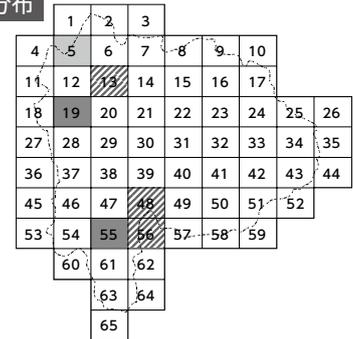
Lycoris sanguinea Maxim. var. *sanguinea*

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

分布



形態 多年草。葉は早春に伸びだし長さ30～40cm、幅0.8～1cmで夏になると枯れる。葉が枯れた後花茎が伸びて、黄赤色の花を散形状に3～5個つける。花被片は斜めに開いて反りかえらない。花期は8～9月。

生育環境 低山帯～山地帯の林縁に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数5。個体数は多く生育地によっては、大きな群落を作っている。

特記事項 人為的な刈り込みなど生育環境の変化を受けやすい場所にあるものも多く、減少も懸念されるため今回はⅡ類とした。 具体的要件①

キチジョウソウ クサスギカズラ科

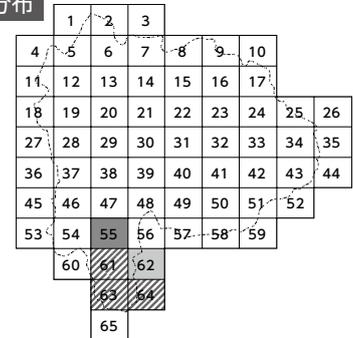
Reineckea carnea (Andrews) Kunth

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



形態 多年草。葉は東生し無柄、葉身は長さ10～30cmの線形。花は高さ8～13cmの花茎の上部に穂状に上向きにつき、花被は長さ8～10mmで紅紫色、やや肉厚、花被片は中部まで合着し筒状になり、先端は反りかえる。果実は径6～9mmの球形。花期は10～11月。

生育環境 関東以西に分布し、やや湿り気のある林床に生育する。山梨県では身延町以南に生育。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数4。県内での生育地が限られているため、個体数の減少が心配される。

特記事項 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「少」と記載されている。今回の調査でも出現メッシュ数4であった。栽培も目立つ。 具体的要件①

ハナミョウガ ショウガ科

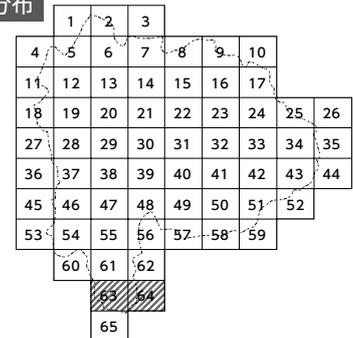
Alpinia japonica (Thunb.) Miq.

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
なし

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

分布



形態 常緑の多年草。草丈は40～60cm。葉は長さ15～40cmの広び針形、両面、特に裏面に細軟毛を密生する。花は偽茎の中心より出る花茎の上部に穂状につき、白色で紅色の条線を生じる。果実は1～2cmの広楕円形で初冬に紅熟する。花期は5～6月。

生育環境 関東以西から奄美諸島にかけて分布し、暖地のやや湿り気のある林床に生育する。県内では南部町以南に生育する。分布限界種。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数2。県内での生育地が限られているため、森林伐採などにより個体数の減少が懸念される。今回の調査で生育地によってはまとまった個体が確認されたためにIB類からⅡ類に変更した。

特記事項 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「稀」と記載されており、今回の調査でも出現メッシュ数2と少なかった。 具体的要件②

クモマスズメノヒエ イグサ科

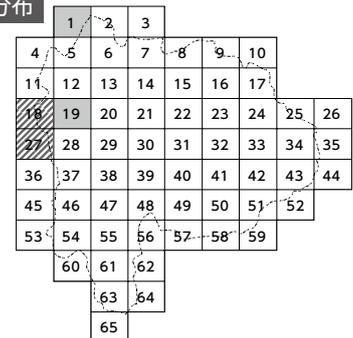
Luzula arcuata (Wahlenb.) Sw. subsp. *unalaschkensis* (Buchenau) Hultén

2018：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



形態 多年草。高さ15～25cm。葉身の先は尖る。花序は頂生し、枝は細く先は垂れ下がる。花は1または2～3個頭状に集まる。花被片は濃赤褐色。蒴果は花被と同長で濃赤褐色。

生育環境 高山帯の草地。

生育状況と絶滅危惧の状況 出現メッシュ数は2。現状個体数は多いが、踏みつけ等による減少が危惧される。

特記事項 2005年調査では出現メッシュ数4。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②